3-815-910-**02** (1)

ネットワークカメラ

ユーザーガイド

ソフトウェアバージョン 1.0

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠注意　電気製品は安全のための注意事項を守らないと、
火災や人身事故になることがあります。

このユーザーガイドには、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示してあります。**このユーザーガイドをよくお読みのうえ**、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

SNC-CS3N

安全のために

本機は正しく使用すれば事故が起きないように、安全には充分配慮して設計されています。しかし、電気製品は、まちがった使いかたをすると、火災や感電などにより死亡や大けがなど人身事故につながることがあり、危険です。
事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

安全のための注意事項を守る

5 〜 6 ページの注意事項をよくお読みください。製品全般および設置の注意事項が記されています。

定期点検を実施する

長期間、安全にお使いいただくために、定期点検をすることをおすすめします。点検の内容や費用については、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご相談ください。

故障したら使用を中止する

すぐに、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご連絡ください。

万一、異常が起きたら

- **煙が出たら**
- **異常な音、においがしたら**
- **内部に水、異物が入ったら**
- **製品を落としたりキャビネットを破損したときは**

❶ 電源コードおよび接続ケーブルを抜く。
❷ お買い上げ店またはソニーのサービス窓口に連絡する。

警告表示の意味

このユーザーガイドおよび製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。

行為を禁止する記号

禁止

分解禁止

水ぬれ禁止

行為を指示する記号

指示

目次

注意 5

はじめに

特長 6
このユーザーガイドの使いかた 7

カメラの操作

ホームページへログインする
ーウェルカムページ 8
ユーザーとしてログインする 8
管理者（Administrator）としてログインする 8
ビューアーについて 9
メインビューアーページの構成 10
メニュー操作部 10
画像操作部 10
画像表示部 11
モニター画像を操作する 11
マニュアルでアプリケーションを操作する 12
FTP サーバーに静止画像をファイル転送する 12
E メールに静止画像を添付して送信する 12
カメラの内部メモリーに静止画像を記録する 12
アラーム出力を制御する 12
モニター画像をキャプチャーする 13

Pocket PC を使ったカメラの操作

ホームページへログインするーウェルカムページ 14
メインビューアーページの構成 15
画像表示部 15
画像操作部 15

カメラの設定

管理者設定メニューページの構成 16
システム設定をするー System 設定ページ 17
System setting 部 17
Date time setting 部 18
Initialization 部 19
カメラを設定するー Camera 設定ページ 20
Camera setting 部 20
ネットワークを設定するー Network 設定ページ 22
Wired LAN setting 部 22
HTTP port setting 部 23
IP アドレス通知を行うー Dynamic IP address notification 部 23
ユーザー設定をするー User 設定ページ 25
セキュリティ設定をするー Security 設定ページ 26
セキュリティ機能を ON/OFF するー Security usage setting ページ 26
セキュリティ機能の基本設定をするー Security setting ページ 26
FTP サーバーへ画像を送信する
ー FTP client 設定ページ 27
FTP クライアント機能を ON/OFF するー FTP client usage setting ページ 27
FTP クライアント機能の基本設定をするー FTP client setting ページ 27
Alarm mode 設定部 28
Periodical sending mode 設定部 29
ダイジェストビューアーを操作する 29
カメラから画像をダウンロードする
ー FTP server 設定ページ 31
FTP サーバー機能を ON/OFF するー FTP server usage setting ページ 31
FTP サーバー機能の基本設定をするー FTP server setting ページ 31
E メールに画像を添付して送る
ー SMTP 設定ページ 32
SMTP 機能を ON/OFF するー SMTP usage setting ページ 32
SMTP 機能の基本設定をする
ー SMTP setting ページ 32
Alarm mode 設定部 33
Periodical sending mode 設定部 34
アラーム出力 1、2 を設定するー Alarm out 1、2 設定ページ 34
アラーム出力 1 機能を ON/OFF するー Alarm out 1 usage setting ページ 34
アラーム出力 1 機能の基本設定をするー Alarm out 1 setting ページ 34
Alarm mode 設定部 35
Timer mode 設定部 35
メモリーに画像を記録する
ー Image memory 設定ページ 36
イメージメモリー機能の ON/OFF と基本設定をするー Image memory usage setting ページ 36
メモリーに画像を記録するー Image memory setting ページ 36
Alarm mode 設定部 37
Periodical recording mode 設定部 38
画像メモリーのディレクトリー構造 39
アラームバッファを設定する
ー Alarm buffer 設定ページ 39
シリアル接続機器とデータの送受信を行う
ー Serial 設定ページ 40
スケジュールを設定するー Schedule 設定ページ 41

動体検知機能を設定する
– Activity detection 設定ページ **41**
動体検知領域を設定する 41
ポップアップ画面を表示する
– Pop-up 設定ページ **42**

その他

付属のセットアッププログラムを使う **43**
セットアッププログラムを使ってカメラに IP アドレスを設定する 43
通信帯域を変更する 44
日付、時刻を設定する 45
カメラを再起動する 45
ARP コマンドを使ってカメラに IP アドレスを割り当てる **46**
SNMP 設定方法について **46**
1. 問い合わせコマンド 46
2. 設定コマンド 47
HTML ファイルを内蔵のフラッシュメモリに書き込む **48**
索引 **51**

⚠注意

下記の注意を守らないと、**けが**をしたり周辺の物品に**損害**を与えることがあります。

分解や改造をしない

分解や改造をすると、火災や感電、けがの原因となることがあります。
内部の点検や修理は、お買い上げ店またはソニーの業務用製品ご相談窓口にご依頼ください。

指定された電源ケーブル、接続ケーブルを使う

設置説明書に記されている電源ケーブル、接続ケーブルを使わないと、火災や故障の原因となることがあります。

直射日光に当たる場所、熱器具の近くには置かない

変形したり、故障したりするだけでなく、レンズの特性により火災の原因となることがあります。特に、窓際に置くときなどはご注意ください。

水にぬれる場所で使用しない

水ぬれすると、漏電による感電、発火の原因となることがあります。

指定された電源電圧で使用する

指定されたものと異なる電源電圧で使用すると、火災や感電の原因となります。

設置は専門の工事業者に依頼する

設置については、必ずお買い上げ店またはソニーの業務用製品ご相談窓口にご相談ください。
壁面や天井などへの設置は、本機と取り付け金具を含む重量に充分耐えられる強度があることをお確かめください。充分な強度がないと、落下して大けがの原因となります。
また、1年に一度は、取り付けがゆるんでいないことを点検してください。
また、使用状況に応じて点検の間隔を短くしてください。

製品の設置は充分な強度のある場所に取り付ける

強度の不充分な場所に設置すると、落下、転倒などにより、けがの原因となります。

機器や部品の取り付けは正しく行う

機器や部品の取り付け方や、本機の分離・合体の方法を誤ると、本機や部品が落下して、けがの原因となることがあります。
設置説明書に記載されている方法に従って、確実に行ってください。

内部に水や異物を入れない

水や異物が入ると、火災の原因となります。
万一、水や異物が入ったときは、すぐに本機が接続されている電源供給機器の電源コードやDC電源ケーブル、本機の接続ケーブルを抜いて、お買い上げ店またはソニーの業務用製品ご相談窓口にご相談ください。

雨のあたる場所や、油煙、湯気、湿気、ほこりの多い場所には設置しない

上記のような場所やこの設置説明書に記されている使用条件以外の環境に設置すると、火災や感電の原因となることがあります。

不安定な場所に設置しない

次のような場所に設置すると、倒れたり落ちたりして、けがの原因となることがあります。
- ぐらついた台の上
- 傾いたところ
- 振動や衝撃のかかるところ

また、設置・取り付け場所の強度を充分にお確かめください。

別売りアクセサリーのレンズは確実に取り付ける

レンズはレンズのねじをしっかり締めて取り付けてください。
取り付けかたがゆるいと、レンズがはずれて、けがの原因となることがあります。
また、1年に一度は、取り付けがゆるんでいないことを点検してください。
また、使用状況に応じて点検の間隔を短くしてください。

- 本ネットワークカメラで提供するシステムおよびサービスはセキュリティーサービスではなく、また確実な安全を保障するものではありません。
- ネットワークカメラをご使用されることにより、インターネットを通じて容易にカメラ映像にアクセスすることが可能です。一方で第三者によりネットワークを通じてモニタリング画像および音声を閲覧、使用等される可能性があります。ネットワークのご利用については、被写体のプライバシー、肖像権などを考慮のうえ、お客様の責任で行ってください。
- ネットワークカメラへのアクセス権限は、ユーザー名およびパスワードを設定することにより行われます。それ以上のカメラによる認証作業は行われません。
- 諸事情による本ネットワークカメラに関連するサービスの停止、中断について、ソニーは一切の責任を負いません。

はじめに

特長

ネットワークを介した高画質モニタリング

ネットワーク (10BASE-T/100BASE-TX) を介してコンピューターから Web ブラウザを使って、カメラの高画質ライブ画像を最大毎秒 30 フレームでモニタリングできます。1 台のカメラ画像を 50 人までのユーザーが同時に見ることができます。

対応ブラウザ

Microsoft Internet Explorer Ver.5.5 または 6.0
(対応 OS：Windows 98/ 98SE/ Me/ NT4.0/ 2000/ XP)

高感度・高画質

1/3 型 Exwave HAD™ CCD を採用した高感度・高画質のビデオカメラです。

カメラの内部メモリーへの画像記録

外部センサー入力、内蔵の動体検知機能およびマニュアルトリガーボタンと連動して、その時点またはその前後の連続静止画を、カメラ内部のメモリー（約 8 MB）へ記録することができます。また、静止画像を定期的に記録することもできます。

E メールや、FTP サーバーを使った画像配信

外部センサー入力、内蔵の動体検知機能およびマニュアルトリガーボタンと連動して、その時点のカメラの静止画像を E メールに添付して送ったり、その時点またはその前後の連続静止画を FTP サーバーに送信できます。また、静止画像を定期的に送信することもできます。
さらに、コンピューターの FTP クライアントソフトウェアを使うと、カメラ内部のメモリー内の静止画像を検索、受信することができます。

アラーム出力機能

2 系統のアラーム出力を装備しており、外部センサー入力や内蔵の動体検知機能、マニュアルトリガーボタン、または時刻と連動して周辺デバイスをコントロールできます。

トランスペアレンシータイプ RS-232C インターフェース装備

RS-232C インターフェースを介して周辺機器と接続することにより、コンピューターからネットワーク経由で周辺機器のコントロールおよびデータ受信ができます。

アナログビデオ出力

VTR や TV モニターを接続して、ローカルでの映像記録やモニタリングが可能です。

- Exwave HAD™ は Exwave Hole-Accumulated Diode の略です。
- CCD は Charge-Coupled Device の略です。

このユーザーガイドの使いかた

このユーザーガイドは、ネットワークカメラ SNC-CS3N をコンピューターから操作する方法を説明しています。
このユーザーガイドは、コンピューターの画面上に表示して読まれることを想定して書かれています。
ここではユーザーガイドをご活用いただくために知っておいていただきたい内容を記載しています。操作の前にお読みください。

関連ページへのジャンプ

コンピューターの画面上でご覧になっている場合、関連ページが表示されている部分をクリックすると、その説明のページへジャンプします。関連ページが簡単に検索できます。

ソフトウェアの画面例について

このユーザーガイドに記載されているソフトウェアの画面は、説明のためのサンプルです。実際の画面とは異なることがありますので、ご了承ください。

ユーザーガイドのプリントアウトについて

このユーザーガイドをプリントする場合、お使いのシステムによっては、画面やイラストの細部までを完全に再現できないことがありますが、ご了承ください。

設置説明書（印刷物）について

付属の設置説明書には、カメラ本体の各部の名称や基本的な設置・接続のしかたが記載されています。操作の前に必ずお読みください。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会 (VCCI) の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

定期交換部品について

本機で使用されている部品の中には有寿命部品として定期交換が必要なもの（電解コンデンサーなど）があります。
使用環境や条件により部品の寿命は異なりますので、長期間ご使用される場合は定期点検をお勧めします。
◆詳しくはお買い上げ店にお問い合わせください。

カメラの操作

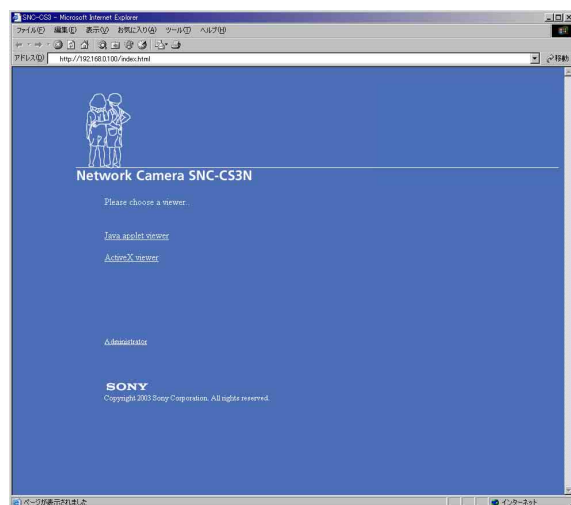
この章では、Web ブラウザを使ってカメラの画像をモニターする方法を説明しています。Web ブラウザには Internet Explorer をお使いください。
カメラの設定については、「カメラの設定」（16 ページ）をご覧ください。

ホームページへログインする
ーウェルカムページ

ユーザーとしてログインする

1 コンピューターで Web ブラウザを起動し、モニターしたいカメラの IP アドレスを IP アドレス欄に入力する。

アドレス(D) http://192.168.0.100

「Network Camera SNC-CS3」のウエルカムページが表示されます。

2 ビューアーを選択する。
［Java applet viewer］、［ActiveX viewer］のどちらか、システム環境や使用目的に応じたビューアーをクリックして選びます。
詳しくは、「ビューアーについて」（9 ページ）をご覧ください。
ビューアーを選択すると、メインビューアーページが表示されます（10 ページ）。

ご注意

ウェルカムページを正しく動作させるためには、以下の手順で Internet Explorer のセキュリティレベルを［中］以下に設定してください。

1 Internet Explorer のメニューバーから［ツール］—［インターネットオプション］—［セキュリティ］タブの順に選択する。

2 ［インターネット］アイコン（本機をインターネット環境で使用しているとき）、または［イントラネット］アイコン（本機をイントラネット環境で使用しているとき）をクリックする。

3 レベルバーを操作して［中］以下にする。（レベルバーが表示されていない場合は、［既定］ボタンをクリックしてからレベルバーを操作してください。）

コンピューターでウイルス対策ソフトウェアをお使いの場合

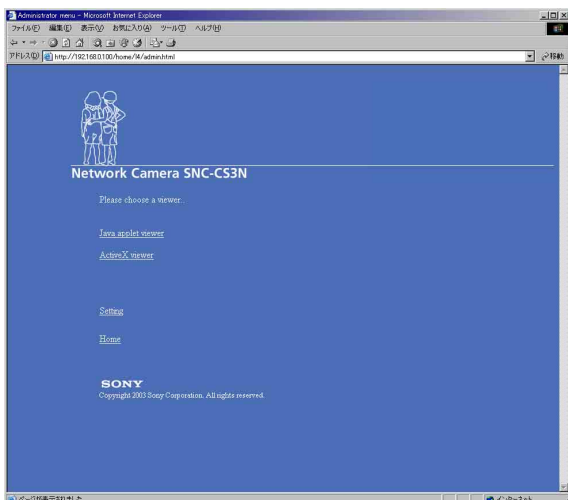
- コンピューターでウイルス対策ソフトウェアをお使いの場合、画像表示のフレームレートが低下するなど、カメラのパフォーマンスが低下する場合があります。
- 本機にアクセスしたときに表示される Web ページには Java スクリプトを使用しています。ご使用になるコンピューターでウィルス対策ソフトウェアをお使いの場合には、ページが正しく表示されない場合があります。

管理者（Administrator）としてログインする

管理者としてログインすると、本機のすべての設定を行うことができます。管理者は、ユーザーアクセス数に関係なく、いつでもログインできます。

1 ウエルカムページの [Administrator] をクリックする。
ログインページが表示されます。

2 管理者用のユーザー名とパスワードを入力し、[OK] をクリックする。
管理者用のユーザー名とパスワードは、工場出荷時には「admin」が設定されています。ユーザー名とパスワードは、管理者設定メニューの User 設定ページで変更できます（25 ページ）。

管理者用のウェルカムページに切り換わります。

3 ビューアーを選択する。
[Java applet viewer]、[ActiveX viewer] のどちらか、システム環境や使用目的に応じたビューアーをクリックして選びます。
詳しくは、「ビューアーについて」（9 ページ）をご覧ください。
ビューアーを選択すると、メインビューアーページが表示されます（10 ページ）。

管理者用ウェルカムページの他の機能

Setting

ここをクリックすると管理者設定メニュー（16 ページ）が表示されます。

Home

ここをクリックすると通常のウエルカムページに戻ります。

ビューアーについて

本機では、次の 2 つのビューアーが選択できます。

Java applet viewer

Java を利用してメインビューアーページを表示します。
このビューアーを選択すると、本機のすべての機能が利用できます。

ご注意

- フレームレートは ActiveX viewer に比べると低くなります。
- 正常に動作しない場合は、以下のようにして Java をインストールするか、有効にしてください。

Microsoft VM がインストールされているコンピューターで Java を有効にするには

Internet Explorer のメニューバー から、[ツール] ー [インターネットオプション ...] ―[詳細設定] タブの順に選択し、[Java JIT コンパイラの使用（再起動が必要）] にチェックします。その後、Internet Explorer を再起動します。

Microsoft VM がインストールされていない場合

Sun microsystems 社の Java VM をインストールしてください。Sun HomePage から Java VM をダウンロードし、インストーラーの指示に従ってインストールします。
その後、Internet Explorer のメニューバーから、[ツール] ー [インターネットオプション] ー [詳細設定] タブの順に選択し、Java (Sun) にチェックした後、Internet Explorer を再起動します。

ActiveX viewer

ActiveX を使用してメインビューアーページを表示します。
このビューアーを選択すると、高フレームレートの表示が可能で、本機のすべての機能が利用できます。
初めて Internet Explorer を使って本機にログインすると、「セキュリティ警告」が表示されます。「はい」をクリックして ActiveX Control をインストールしてください。

ご注意

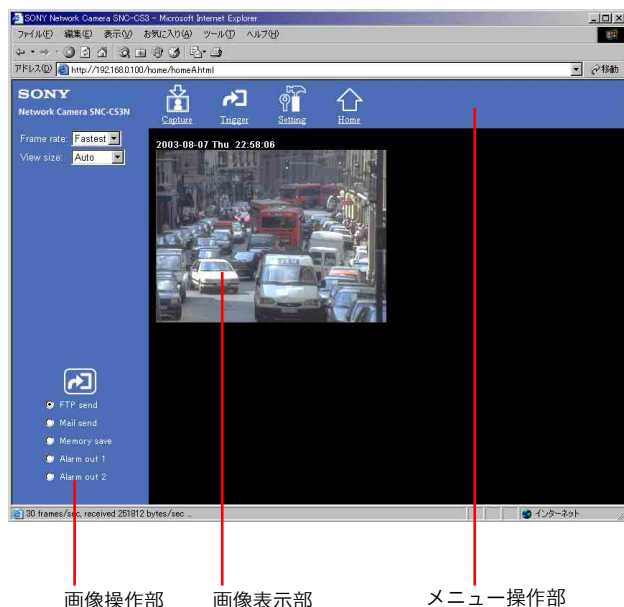
- Windows NT4.0 または Windows 98 をお使いで、画像を表示できない場合は、付属の CD-ROM に収録されている、MFC42DLL Version Up Tool をインストールしてください。
- Internet Explorer のローカルエリアネットワーク（LAN）の設定を自動設定にすると、画像が表示されない場合があります。この場合は自動設定を使用不可にして手動でプロキシサーバーを設定してください。プロキシサーバーの設定については、ネットワーク管理者にご相談ください。
- Windows NT4.0, Windows 2000, Windows XP をお使いの場合は、ActiveX viewer のインストール時は「管理者権限」でコンピューターにログインしておく必要があります。

補足

本ソフトウェアの各ページは、Internet Explorer の表示文字サイズ [中] で最適化されています。

メインビューアーページの構成

ビューアーを選択すると、メインビューアーページが表示されます。
ここでは、メインビューアーページの各部の名前と機能を説明します。詳しい説明は、それぞれの機能の説明ページをご覧ください。

メインビューアーページ

メニュー操作部

ユーザーアクセス権により 、操作できる機能が限定されます。ユーザーアクセス権はUser 設定ページ（25 ページ）で変更できます。

Capture

カメラの静止画像をキャプチャーし、コンピューターに保存します。（「モニター画像をキャプチャーする」13 ページ）

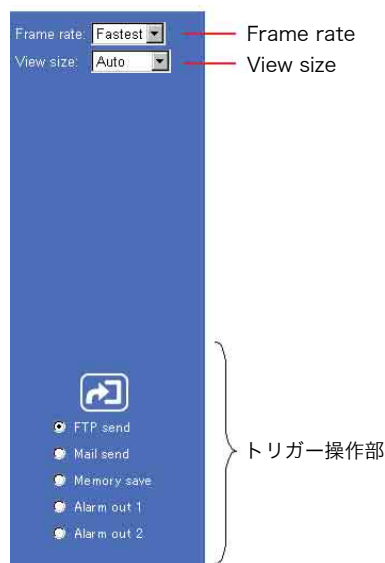
Trigger

画像操作部にトリガー操作部を表示します。
トリガーボタンをクリックすると、マニュアルでアプリケーションを操作できます。（「マニュアルでアプリケーションを操作する」12 ページ）
この操作には、ユーザーアクセス権「Level 3 〜 4」が必要です。

Setting

管理者設定メニューページを表示します。（「管理者設定メニューページの構成」16 ページ）
この操作には、ユーザーアクセス権「Level 4」が必要です。

Home

ウエルカムページを表示します。

画像操作部

Frame rate

配信する画像のフレームレートを選択します。（「フレームレートを選択する」11 ページ）

View size

画像の表示サイズを選択します。（「画像表示サイズを選択する」11 ページ）

トリガー操作部

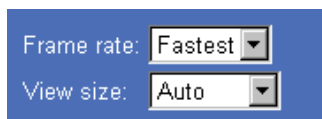
メニュー操作部のTrigger ボタンをクリックすると表示されます。トリガーを出力します。（「マニュアルでアプリケーションを操作する」12 ページ）

画像表示部

カメラの画像を表示します。

モニター画像を操作する

メインビューアーページの画像操作部からモニター画像を操作できます。

画像操作部

フレームレートを選択する

[Frame rate] リストボックスをクリックして画像を配信するフレームレートを選択します。
選択可能なフレームレートは、[1]、[2]、[3]、[4]、[5]、[6]、[8]、[10]、[15]、[20]、[25]、[Fastest] です。数字は"FPS"(1秒間に配信されるフレーム数)を示します。
[Fastest] を選択すると、接続されている回線に可能な最高速度(最大30 FPS)で配信されます。

ご注意

選択されたフレームレートは配信されるフレームの最大値を示します。
ご使用のコンピューターや、接続されているネットワーク環境、カメラの設定(画像サイズ、画質選択)により実際のフレームレートは異なります。

画像表示サイズを選択する

[View size] リストボックスをクリックして、[Auto]、[640 × 480]、[320 × 240]、[160 × 120] の4種類から画像表示サイズを選択します。
[Auto] を選択すると、Camera 設定ページの Image size (20 ページ) で選択した画像サイズで表示されます。

カメラの操作

マニュアルでアプリケーションを操作する

メインビューアーページの画像操作部から画像を送信したり、アラーム出力を制御するトリガーを出力できます。ユーザーアクセス権「Level 3 ～ 4」が必要です（25 ページ）。

メニュー操作部の Trigger ボタンをクリックすると、トリガー操作部が表示されます。

画像操作部（トリガー操作部）

FTP サーバーに静止画像をファイル転送する

［FTP send］を選択し、 をクリックすると、その瞬間の静止画像がキャプチャーされ、FTP サーバーに静止画像がファイル転送されます。
ファイル転送を行うには、あらかじめ、FTP client 設定ページで［Use FTP client function］を選択し、動作モードを [Manual] に設定しておく必要があります。
詳しくは、「FTP サーバーへ画像を送信する － FTP client 設定ページ」（27 ページ）をご覧ください。

E メールに静止画像を添付して送信する

［Mail send］を選択し、 をクリックすると、その瞬間の静止画像がキャプチャーされ、SMTP 設定ページで設定した E メールアドレスに静止画像を添付した E メールが送信されます。
E メールを送信するには、あらかじめ、SMTP 設定ページで [Use SMTP function] を選択し、動作モードを［Manual］に設定しておく必要があります。
詳しくは、「E メールに画像を添付して送る － SMTP 設定ページ」（32 ページ）をご覧ください。

カメラの内部メモリーに静止画像を記録する

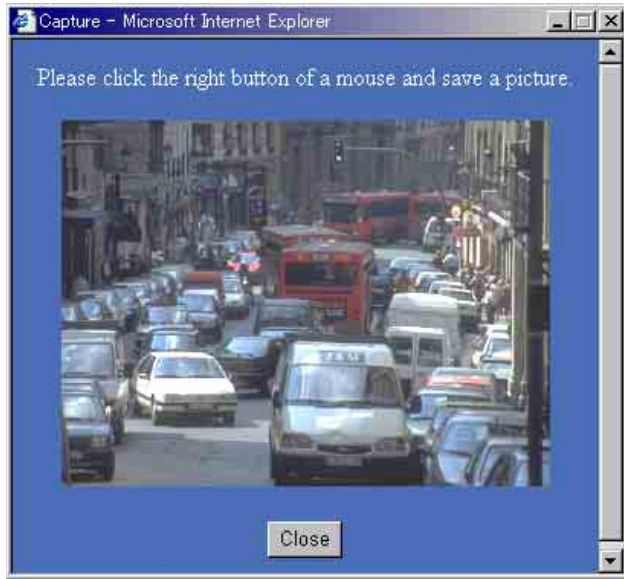
［Memory save］を選択し、 をクリックすると、その瞬間の静止画像がキャプチャーされ、静止画像が記録されます。
メモリーに静止画像を記録するには、あらかじめ、Image memory 設定ページで［Use image memory function］を選択し、動作モードを [Manual] に設定しておく必要があります。
詳しくは、「メモリーに画像を記録する－ Image memory 設定ページ」（36 ページ）をご覧ください。

アラーム出力を制御する

［Alarm out 1］または［Alarm out 2］を選択し、 をクリックすると、カメラ本体の I/O ポートのアラーム出力 1、アラーム出力 2 をマニュアルで制御できます。クリックするたびに、リレーの短絡と開放が切り換わります。
アラーム出力を制御するには、あらかじめ Alarm out 1 設定ページまたは Alarm out 2 設定ページで［Use alarm out 1 (または 2) function］を選択し、動作モードを [Manual] に設定しておく必要があります。
詳しくは、「アラーム出力 1、2 を設定する－ Alarm out 1、2 設定ページ」（34 ページ）をご覧ください。

I/O ポートのアラーム出力を周辺デバイスへ接続する方法は、付属の設置説明書をご覧ください。

モニター画像をキャプチャーする

メニュー操作部の Capture ボタンをクリックすると、その瞬間の静止画像がキャプチャーされ、画像表示部に静止画像が表示されます。

キャプチャーした画像を保存するには

マウスを右クリックし、表示されるメニューから［名前を付けて画像を保存］を選択すると、「画像の保存」ダイアログが表示されます。ダイアログ上でファイル名を設定し、保存先を指定してから保存します。JPEG 形式で保存されます。

Pocket PC を使ったカメラの操作

Microsoft Pocket PC 2002 を搭載した PDA 端末で画像を表示したり、カメラを操作することができます。

動作環境

OS：Microsoft Pocket PC 2002
Web ブラウザ：Microsoft Internet Explorer
CPU：Strong ARM 206MHz 以上（互換 CPU を含む）
RAM：64MB 以上
Plug-In：Jeode Ver. 1.9.1（Java 実行環境）

ご注意

本機の画像表示およびカメラの操作を行う場合は、「Jeode」が必要です。実装されていない場合は、Pocket PC のマニュアルを参照してインストールしてください。

ホームページへログインする

ーウェルカムページ

1 Pocket PC 端末で Web ブラウザを起動し、モニターしたいカメラの IP アドレスを IP アドレス欄に記入する。

http://192.168.0.100

「Network camera SNC-CS3」の Pocket PC 用ウェルカムページが表示されます。

2 [Viewer] をタップする。

メインビューアーページが表示されます。

ご注意

- ページが正しく表示されない場合は、Web ブラウザの［更新］ボタンをタップしてください。
- Pocket PC でウイルス対策ソフトウェアをお使いの場合、画像表示のフレームレートが低下するなどカメラのパフォーマンスが低下する場合があります。
- 本機にアクセスしたときに表示される Web ページには Java スクリプトを使用しています。ご使用になる Pocket PC でウイルス対策ソフトウェアをお使いの場合には、ページが正しく表示されない場合があります。

メインビューアーページの構成

ビューアーを選択すると、メインビューアーページが表示されます。
ここでは、メインビューアーページの各部の名前と機能を説明します。詳しい説明は、それぞれの機能の説明ページをご覧ください。

メインビューアーページ

画像表示部

Camera 設定ページの［Image size］（20 ページ）を［160 × 120］に設定すると、Pocket PC の画像フレームレートが上がります。

画像操作部

タップすると、ビューアーの動作を開始します。
ボタン表示は［STOP］に変わります。

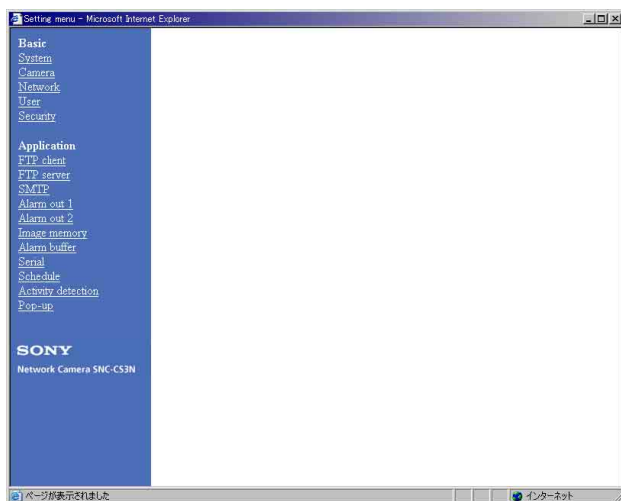
タップすると、ビューアーの動作が停止し、画像更新が止まります。
ボタン表示は［START］に変わります。

Pocket PC を使ったカメラの操作

カメラの設定

この章では、管理者によるカメラの機能の設定について説明します。
カメラの画像をモニターする方法は、「カメラの操作」（8ページ）をご覧ください。

管理者設定メニューページの構成

アクセス権「Level4」の管理者が、管理者用ウェルカムページの［Setting］を選択したり、メインビューアーページのメニュー操作部の Setting ボタンをクリックすると、管理者用の設定メニューページが表示されます。

管理者設定メニューには、本機の基本設定を行う Basic メニューと、それぞれのユーザーの使用状態に合わせてアプリケーションを設定する Application メニューがあります。
各メニュー名をクリックすると、その設定ページが表示されます。

Basic メニュー

System

System 設定ページを表示します。（「システム設定をする－ System 設定ページ」17 ページ）

Camera

Camera 設定ページを表示します。（「カメラを設定する－ Camera 設定ページ」20 ページ）

Network

Network 設定ページを表示します。（「ネットワークを設定する－ Network 設定ページ」22 ページ）

User

User 設定ページを表示します。（「ユーザー設定をする － User 設定ページ」25 ページ）

Security

Security 設定ページを表示します。（「セキュリティ設定をする－ Security 設定ページ」26 ページ）

Application メニュー

FTP client

FTP client 設定ページを表示します。（「FTP サーバーへ画像を送信する － FTP client 設定ページ」27 ページ）

FTP server

FTP server 設定ページを表示します。（「カメラから画像をダウンロードする － FTP server 設定ページ」31 ページ）

SMTP

SMTP 設定ページを表示します。（「E メールに画像を添付して送る － SMTP 設定ページ」32 ページ）

Alarm out 1

Alarm out 1 設定ページを表示します。（「アラーム出力 1、2 を設定する－ Alarm out 1、2 設定ページ」34 ページ）

Alarm out 2

Alarm out 2 設定ページを表示します。（「アラーム出力 1、2 を設定する－ Alarm out 1、2 設定ページ」34 ページ）

Image memory

Image memory 設定ページを表示します。（「メモリーに画像を記録する－ Image memory 設定ページ」36 ページ）

Alarm buffer

Alarm buffer 設定ページを表示します。（「アラームバッファを設定する－ Alarm buffer 設定ページ」39 ページ）

Serial

Serial 設定ページを表示します。（「シリアル接続機器とデータの送受信を行う － Serial 設定ページ」40 ページ）

Schedule

Schedule 設定ページを表示します。(「スケジュールを設定する－ Schedule 設定ページ」41 ページ)

Activity detection

Activity detection 設定ページを表示します。(「動体検知機能を設定する－ Activity detection 設定ページ」41 ページ)

Pop-up

Pop up 設定ページを表示します。(「ポップアップ画面を表示する － Pop-up 設定ページ」42 ページ)

各設定ページの共通ボタン

設定ページには、必要に応じて以下の共通ボタンが表示されます。ボタンの機能は、どの設定ページでも同じです。

OK　Apply

設定した内容を有効にするとき、クリックします。

Cancel

設定した内容を無効にして、元の状態に戻すときクリックします。

Back

その設定ページの先頭ページに戻すとき、クリックします。

設定ページ全般についてのご注意

- 設定ページで、Welcome text や e-mail address など、コンピューターから入力する文字に、全角文字や半角カタカナは使用できません。
- 設定ページで設定を変更した場合は、10 秒以上経過してからカメラの電源を切ってください。すぐに電源を切ると、変更した設定内容が保存されない場合があります。
- Area setting 設定ページや動体検知機能（Activity detection）設定ページを表示すると、メインビューアーページに表示される画像サイズがしばらくの間変わる場合がありますが、異常ではありません。

システム設定をする － System 設定ページ

管理者設定メニューの［System］をクリックすると、System 設定ページが表示されます。
このページでは本機の基本設定を行います。

System setting 部

Title bar name

本機のタイトルバー名を入力します。
半角で 32 文字まで入力可能です。

Welcome text

本機のウエルカムページに表示する文を HTML 形式で入力します。
半角で 1024 文字以内（改行は 2 文字換算）で入力可能です。
改行は
 タグで入力してください。

Serial No.

本機のシリアル番号が表示されます。

Default frame rate

ホームページへログインし、メインビューアーページを表示したときのフレームレートの初期値をリストボックスから選択します。
リストボックスをクリックして画像を配信するフレームレートを選択します。
選択できるフレームレート：1、2、3、4、5、6、8、10、15、20、25、Fastest

数字は“FPS”（1 秒間に配信されるフレーム数）を示します。
［Fastest］を選択すると、接続されている回線に可能な最高速度（最大 30 FPS）で配信されます。

ご注意

変更した設定内容を既に開いているメインビューアーページに反映させるには、ブラウザの［更新］をクリックしてください。

Default URL

ブラウザのアドレス欄に本機の IP アドレスを入力したときに表示されるページを選択します。

本機に内蔵のホームページを使用するとき

［/index.html］を選択します。

固有のホームページを使用するとき

本機の CGI コマンドを使って作成したホームページの HTML ファイルを、付属の CD-ROM に収録されている Custom Homepage Installer を使って本機に内蔵されたフラッシュメモリに書き込むことにより、固有のホームページを使用することができます。

1 ［User setting/ddrv/］を選択する。

2 付属の CD-ROM に収録されている Custom Homepage Installer を使って、独自に作成したホームページの HTML ファイルを本機に内蔵されたフラッシュメモリに書き込む。
Custom Homepage Installer の使いかたは、48 ページをご覧ください。

3 テキストボックスに表示するページのパスを入力する（半角英数字 64 文字以下）。

System log

[View] をクリックすると、Log file events ページが表示されます。Log file events ページには、ソフトウェアのバージョンやトラブルが起きたときに役立つイベント情報が表示されます。

Access log

[View] をクリックすると Access log ページが表示されます。Access log ページには、カメラのアクセス履歴が表示されます。

Date time setting 部

Current date time

本カメラに設定されている日付／時刻を表示します。カメラの日付／時刻は、以下の 2 とおりの方法で設定できます。

ご注意

お買い上げ時、時刻の設定が合っていない場合があります。必ずご確認ください。

System (PC) current date time

使用しているコンピューターの日付／時刻がテキストボックスに表示されます。カメラの日付／時刻をコンピューターの日付／時刻と合わせるときに使います。
[Apply] をクリックすると Current date time がこの時刻に変更されます。

Manual current date time

カメラの日付／時刻を手動設定するときに使います。
各ボックスのドロップダウンリストで、年（下 2 桁）、月、日、時、分、秒を選択します。［Apply］をクリックすると Current date time がこの時刻に変更されます。

Time zone selecting

カメラの設置してある地域に合わせ、グリニッジ標準時刻との時差を設定します。E メールを送信するとき、この設定を使って受信側の日付／時刻に合うように調整されます。
リストボックスからカメラを設置してある地域を選択します。［Apply］をクリックすると Current date time が選択に合わせて調整、変更されます。
日本の場合は、[(GMT+09:00) Osaka、Sapporo、Tokyo、Seoul] を選択します。

ご注意

- Time zone selecting で選択したタイムゾーンとコンピューターのタイムゾーンが異なる場合は、タイムゾーンの差を反映した日付／時刻がカメラに設定されます。
- ネットワークの特性上、設定された時刻には多少のずれが発生する場合があります。

Date time format

モニター画面上に表示する日付／時刻の書式をリストボックスから選択します。
[yyyy-mm-dd　hh:mm:ss]（年—月—日 時：分：秒）、[mm-dd-yyyy　hh:mm:ss]（月—日—年 時：分：秒）、[dd-mm-yyyy　hh:mm:ss]（日—月—年 時：分：秒）から選択できます。
[Apply] をクリックすると、変更した設定内容がカメラに転送されます。

Synchronization with NTP server

カメラの時刻を NTP (Network Time Protocol) サーバーと呼ばれる時刻サーバーと同期させる機能です。
時刻同期機能を使うときは［On］を、時刻同期機能を使わないときは［Off］を選択します。

NTP server name

NTP サーバーのホスト名または IP アドレスを入力します。半角文字で 64 文字以内で入力します。
Synchronization with NTP server が［On］のとき、有効になります。

Interval time

NTP サーバーに現在時刻を問い合わせし、カメラとの時刻調整を行う間隔を設定します。1 ～ 24 時間の間で設定できます。実際にはこの間隔は目安であり、多少の差異があります。
Synchronization with NTP server が［On］のとき、有効になります。

ご注意

この機能をご使用になった場合、カメラと NTP サーバー間のネットワークの回線状況などにより、設定時刻に誤差が生じる場合があります。

Initialization 部

Backup setting

カメラの設定情報をファイルに保存するときに使います。
[Save] をクリックし、ブラウザの指示に従ってフォルダを指定して本カメラの設定情報を保存することができます。
保存ファイル名称の初期値は「snc-cs3.cfg」です。

Restore setting

保存されているカメラの設定情報を呼び出すときに使います。
[参照] をクリックして、保存されているカメラ設定情報を選択します。[Apply] をクリックすると、選択されたファイルに従ってカメラが設定され、再起動します。

ご注意

Network 設定ページ の Wired LAN setting 部の IP address（22 ページ）の設定は反映されません。

Reboot

強制的にカメラを再起動するときに使います。
[Reboot] をクリックすると、「The SNC-CS3 will be rebooted. Are you sure?」と表示されます。[OK] をクリックするとカメラが再起動します。

Factory default

カメラを出荷時の設定に戻すときに使います。
[Factory default] をクリックすると、「All configuration information will be initialized as factory setting.　Are you sure?」と表示されます。
[OK] をクリックすると出荷時の設定に戻ります。

カメラを設定する
－ Camera 設定ページ

管理者設定メニューの［Camera］をクリックすると、Camera 設定ページが表示されます。
このページではカメラ機能の設定を行うことができます。

ご注意

変更した設定をカメラに反映するには、設定値を変更後、その項目の［Apply］ボタンをクリックしてください。

Camera setting 部

Camera setting		
Image size	Maximum alarm images change by selecting the list box. 640x480(Auto)	Apply
Image quality	Maximum alarm images change by selecting the list box. Level 5	Apply
Image	◉ Color ○ Monochrome	Apply
Area setting	○ On ◉ Off Area setting	Apply
White balance mode	Auto	Apply
Exposure mode	Auto Iris lens	Apply
	AGC: ◉ Normal ○ Turbo	Apply
	Shutter mode: ◉ Auto ○ Manual	Apply
	Back light compensation: ○ On ◉ Off	Apply
	Lens adjust: 137 (0 to 255)	Apply
Saturation	0 (-3 to 3)	Apply
Sharpness	7 (1 to 16)	Apply
Contrast	0 (-3 to 3)	Apply
Camera reset	Apply	

Image size

コンピューターに送るカメラ画像のサイズを選択します。
［736 × 480（Auto）］、［736 × 480（Frame）］、［736 × 480（Field）］、［640 × 480（Auto）］、［640 × 480（Frame）］、［640 × 480（Field）］、［320 × 240］、［160 × 120］から選択できます。
［Frame］は静止画像向き、［Field］は動画像向きです。
［Auto］を選択すると、被写体が静止画像の場合は Frame 画像、動画像の場合は Field 画像に自動的に切り換えます。

Image quality

画質を選択します。［Level 1］～［Level 10］が選択できます。
レベルが高いほど画質が良くなりますが、1 画像のデータ量が大きくなりますので、フレームレートは小さくなります。

補足

1 画素 24 ビット（RGB 各 8 ビット）の画像データ量を基準にした場合のレベルとデータ量、圧縮率の関係は以下のようになります。（640 × 480 画像の場合）

Level	データ量	圧縮率
1	約 15 KB	約 1/60
2	約 18 KB	約 1/50
3	約 22.5 KB	約 1/40
4	約 25.7 KB	約 1/35
5	約 30 KB	約 1/30
6	約 36 KB	約 1/25
7	約 45 KB	約 1/20
8	約 60 KB	約 1/15
9	約 90 KB	約 1/10
10	約 180 KB	約 1/5

Image

［Color］（カラー画像）と［Monochrome］（白黒画像）を選択します。

Area setting

画像サイズが [736 × 480] または [640 × 480] のとき、必要な部分のみの画像を切り出してコンピューターに表示できます。必要な部分のみを表示させることにより、配信のデータ量を小さくし、回線の負担を軽減し、フレームレートを上げることができます。

画像の切り出しを行うときは［On］、切り出しを行わないときは［Off］を選択します。

画像の切り出しかた

1. Image Sizeを[736×480]または[640×480]に設定する。
2. [On] を選択し、[Apply] をクリックする。
3. [Area setting] をクリックする。
   静止画像が表示されます。

4 切り出し範囲を設定する。
静止画像上でマウスの左ボタンを押し続けて対角線方向にドラッグします。赤い枠で囲まれたエリアが切り出し範囲となります。

5 画面下部の［OK］をクリックする。
切り出した画像がメインビューアーページに表示されます。

6 画像を閉じるには、画面右上の ☒ ボタンをクリックする。

White balance mode

ホワイトバランスモードを選択します。
［Auto］、［Indoor1］、［Indoor2］、［Outdoor］、［One push WB］から選択できます。
［Auto］を選択すると、自動でホワイトバランスを調整します。
［Indoor1］を選択すると、屋内撮影で、光源が白熱球のときに適したホワイトバランス（約 3200K）に調整されます。
［Indoor2］を選択すると、屋内撮影で、光源が蛍光灯のときに適したホワイトバランス（約 4200K）に調整されます。
［Outdoor］を選択すると、屋外撮影に適したホワイトバランス（約 6300K）に調整されます。
［One push WB］を選択すると、One Push Trigger ボタンが表示されます。ボタンをクリックすると、ホワイトバランスが調整されます。

Exposure mode

露出の調整モードを選択します。
［Auto Iris lens］、［CCD Iris］、［Manual］から選択できます。
選択したモードに応じて下部に必要な調整項目が表示されます。

[Auto Iris lens]：オートアイリスレンズを使用しているときに選択します。

[CCD Iris]：固定アイリスレンズを使用しているときに選択します。電子シャッターと AGC（オートゲインコントロール）により、露出を調整します。

[Manual]：電子シャッターと感度マニュアルで調整します。

AGC（オートゲインコントロール）

被写体の明るさに応じて、感度を自動で調整します。
［Turbo］を選択すると、［Normal］を選択したときより、感度の最大値が約 6 dB 高くなります。

Back light compensation

逆光補正をするときは [On]、しないときは [Off] を選択します。

Lens adjust

オートアイリスレンズの絞り収集値のレベルを調整します。0 ～ 255 の範囲で設定できます。

Shutter mode

電子シャッターの動作モードを選択します。
［Auto］［Manual］から選択できます。
選択に応じ、下部に必要な調整項目が表示されます。

Flicker less

［On］を選択すると、電子シャッターが 1/100 秒に設定され、50Hz 地域（東日本）での蛍光灯などのちらつきを軽減します。

ご注意

System 設定ページの Time zone selecting で［(GMT+9:00) Osaka, Sapporo, Tokyo, Seoul］が選択されているときのみ、設定が可能です。

Shutter

電子シャッターのシャッタースピードを選択します。以下のシャッタースピードを選択できます。
1/10000, 1/4000, 1/2000, 1/1000, 1/500, 1/250, 1/100, 1/60（単位は秒）

Gain

感度を調整します。以下の dB 値を選択できます。
0 dB, 6 dB, 12 dB, 18dB

Saturation

彩度を［－ 3］～［3］の 7 段階から選択します。
［3］を選択すると最高彩度の画像になります。

ご注意

彩度はコンピューター画像にのみ反映されます。(Video 出力には反映されません)

Sharpness

鮮鋭度を［1］～［16］の 16 段階から選択できます。
［16］を選択すると最高鮮鋭度の画像になります。

Contrast

コントラストを［－ 3］～［3］の 7 段階から選択します。
［3］を選択すると最高コントラストの画像になります。

ご注意

コントラストはコンピューター画像にのみ反映されます。(Video 出力には反映されません)

Camera reset

[Apply] をクリックすると、「Camera reset OK?」と表示されます。ダイアログの [OK] をクリックすると、Camera 設定ページのカメラ設定が出荷時の設定に戻ります。

ネットワークを設定する－ Network 設定ページ

管理者設定メニューの［Network］をクリックすると、Network 設定ページが表示されます。
このページでは本機とコンピューターをネットワーク接続するためにネットワーク設定を行います。

Wired LAN setting 部

本機をネットワークケーブルで接続するための設定を行います。

DHCP

［On］にすると IP アドレスが自動的に割り当てられます。固定 IP アドレスを設定する場合は［Off］にします。

ご注意

DHCP を［On］にする場合は、ネットワーク上に DHCP サーバーが必要です。

DNS auto acquisition

DHCP を [On] にしたとき、DNS サーバーの IP アドレスを自動的に取得するかどうかを設定します。
自動的に取得するときは [On] にします。

IP address

カメラの IP アドレスを入力します。

Subnet mask

サブネットマスク値を入力します。

Default gateway

デフォルトゲートウエイを入力します。

MAC address

カメラの MAC アドレスを表示します。

Primary DNS

プライマリー DNS サーバーの IP アドレスを入力します。

Secondary DNS

必要があれば、セカンダリー DNS サーバーの IP アドレスを入力します。

Bandwidth control

本カメラが送受信するデータの帯域を制限します。
選択できる帯域は以下のとおりです。帯域を制限しないときは [Unlimited] を選択します。
選択可能な帯域：Unlimited, 0.5, 0.6, 0.7, 0.8, 0.9, 1.0, 2.0, 3.0, 4.0, 5.0, 6.0, 7.0, 8.0（単位は Mbps）

ご注意

- 帯域を制限すると、画像表示のフレームレートが低下するなど、カメラのパフォーマンスが低下します。
- ネットワーク環境により、実際の帯域は選択された帯域より増減する場合があります。

OK/Cancel

「各設定ページの共通ボタン」（17 ページ）をご覧ください。

HTTP port setting 部

本カメラの HTTP サーバーポート番号を設定します。

HTTP port No.

通常は [80] を選択します。[80] 以外のポート番号に設定するときは、テキストボックスを選択し、ポート番号 1024 ～ 65535 を入力します。

ご注意

Network 設定ページやセットアッププログラムで HTTP port No. を [80] 以外のポート番号に設定したときは、ブラウザのアドレス欄に以下のように入力してカメラにアクセスしてください。

例：ポート番号を 8000 番に設定した場合

IP アドレス通知を行うー Dynamic IP address notification 部

Wired LAN setting 部で DHCP を [On] にした場合に SMTP や HTTP などのプロトコルを使用してネットワーク設定の完了通知を送ることができます。

SMTP

[On] を選択すると、DHCP 設定完了時にメールを送信することができます。

SMTP server name

メール送信に使用する SMTP サーバー名または SMTP サーバーの IP アドレスを半角 64 文字以内で入力します。

Recipient e-mail address

送信先（受取人）のメールアドレスを半角 64 文字以内で入力します。送信先は 1 つのみです。

From e-mail address

メールの From フィールドに表示させるメールアドレスを半角 64 文字以内で入力します。メール返信およびメールサーバーからのシステムメールの宛先となります。

Subject
メールの件名 / 題名を半角 64 文字以内で入力します。

Message
メールの本文を半角 384 文字以内で入力します。後述の特殊タグを使用して、取得した IP アドレスなどの情報を記入することができます。

HTTP
[On] を選択すると、DHCP 設定完了時に HTTP サーバーにコマンドを出力させることができます。コマンドを受け取る側の HTTP サーバーに残るアクセスログを参照したり、CGI による外部プログラムを起動させるなど、便利なシステムを構築することが可能となります。

URL
HTTP コマンドを送信するための URL を指定します。
URL は通常以下の形式で 256 文字以内で記述します。

http://ip_address[:port]/path?parameter

ip_address：接続すべきホストの IP アドレスまたはホスト名を入力します。
[:port]：接続するポート番号を入力します。通常の HTTP サーバーは Well-known ポートである 80 番を使用しますが、この場合には省略することができます。
path：コマンド名称を入力します。
parameter：必要があればコマンドのパラメーターを入力します。パラメーターには後述の特殊タグを入力することができます。

Proxy server name
プロキシサーバー経由で HTTP コマンドを送信する際に設定します。プロキシサーバー名またはその IP アドレスを半角 64 文字以内で入力します。

Proxy port No.
プロキシサーバー経由で HTTP コマンドを送信するためのポート番号を設定します。1024 ～ 65535 の値を設定することができます。

Method
HTTP のメソッドを選択します。サポートされているメソッドは GET、POST の 2 種類です。

特殊タグについて
Dynamic IP address notification では、DHCP で取得した IP アドレスなどを通知できるようにするため特殊タグを使用することができます。これは SMTP の Messsage 中、HTTP の URL のパラメーター部分に入力することができます。特殊タグには以下の 5 種類があります。

<IP>
このタグを使用すると DHCP 設定後の IP アドレスを本文中やパラメーターに埋め込むことができます。

<HTTPPORT>
このタグを使用すると設定されている HTTP サーバーのポート番号を本文中やパラメーターに埋め込むことができます。

<MACADDRESS>
このタグを使用すると DHCP で IP アドレスを取得したインターフェースの MAC アドレスを本文中やパラメーターに埋め込むことができます。

<MODELNAME>
このタグを使用すると本機のモデル名称（SNC-CS3N）を本文中やパラメーターに埋め込むことができます。

<SERIAL>
このタグを使用することで本機のシリアル番号を本文中やパラメーターに埋め込むことができます。

ユーザー設定をする
－ User 設定ページ

管理者設定メニューの［User］をクリックすると、User 設定ページが表示されます。
このページでは、管理者（Administrator）と最大9ユーザー（User 1 ～ User 9）のユーザー名とパスワード、および各ユーザーのアクセス権が設定できます。

User setting

User ID	User name	Password	Re-type password	Access right
Administrator	admin	*****	*****	Level 4
User 1				No access right
User 2				No access right
User 3				No access right
User 4				No access right
User 5				No access right
User 6				No access right
User 7				No access right
User 8				No access right
User 9				No access right
User access right	Level 4			

OK　Cancel

Administrator, User 1 ～ 9

各列に [User name]、[Password]、[Re-type password]、[Access right] を設定します。

User name

ユーザー名を 4 ～ 16 文字の半角英数字で入力します。

Password

パスワードを 4 ～ 16 文字の半角英数字で入力します。

Re-type password

パスワードの確認のために、Password 欄に入力した文字と同じ文字を再入力します。

ご注意

User name、Password、Re-type password の入力に間違いがあると、次のようなメッセージが表示されます。[OK] をクリックし、正しく入力し直してください。

Access right

リストボックスから各ユーザーのアクセス権を選択します。［Level 1］～［Level 4］が選択できます。各アクセス権の権限は以下のとおりです。

[Level 1]、[Level 2]：モニター画像を見る権限（モニターに関する一部の操作を含みます）

[Level 3]：モニター画像を見る権限およびマニュアルでアプリケーションを操作する権限

[Level 4]：すべての権限（管理者）

[No access right]：一時的にアクセスを禁止させるときに使用します。

User access right

ユーザー認証画面を表示してユーザー認証を行うアクセス権のレベルを設定します。

[Level 1]：メインビューアーページ（10 ページ）、トリガー操作部（12 ページ）、管理者設定メニューページ（16 ページ）を表示するとき、ユーザー認証を行います。

[Level 2]、[Level 3]：トリガー操作部と管理者設定メニューページを表示するとき、ユーザー認証を行います。メインビューアーページはユーザー認証を行わずに表示できます。

[Level 4]：管理者設定メニューページを表示するときのみ、ユーザー認証を行います。その他のページはユーザー認証を行わずに表示できます。

OK/Cancel

「各設定ページの共通ボタン」（17 ページ）をご覧ください。

セキュリティ設定をする
– Security 設定ページ

管理者設定メニューの［Security］をクリックすると、Security 設定ページが表示されます。
このページは、本機にアクセスできるコンピューターを制限するセキュリティ機能を設定します。

セキュリティ機能を ON/OFF する – Security usage setting ページ

セキュリティ機能を使用するときは、[Use security function] を選択し、[OK] をクリックします。Security setting ページが表示されます。
セキュリティ機能を使用しないときは、[Do not use security function] を選択し、[OK] をクリックします。

セキュリティ機能の基本設定をする – Security setting ページ

Security setting			
Default policy	Allow		
Network address/Subnet 1	192.168.0.90	/ 32	Allow
Network address/Subnet 2	192.168.1.0	/ 24	Deny
Network address/Subnet 3	0.0.0.0	/ 8	Allow
Network address/Subnet 4	0.0.0.0	/ 8	Allow
Network address/Subnet 5	0.0.0.0	/ 8	Allow
Network address/Subnet 6	0.0.0.0	/ 8	Allow
Network address/Subnet 7	0.0.0.0	/ 8	Allow
Network address/Subnet 8	0.0.0.0	/ 8	Allow
Network address/Subnet 9	0.0.0.0	/ 8	Allow
Network address/Subnet10	0.0.0.0	/ 8	Allow
	OK	Cancel	

Default policy

下記の Network address/Subnet 1 ～ Network address/Subnet 10 に設定するネットワークアドレス以外のコンピューターに対して、アクセス制限を［Allow］（許可）にするか、［Deny］（拒否）にするかを設定します。

Network address/Subnet 1 ～ Network address/Subnet 10

アクセスを許可または拒否したいネットワークアドレス / サブネットマスク値を入力します。
10 種類のネットワークアドレス / サブネットマスクが設定可能です。
サブネットマスクは 8 ～ 32 を半角で入力します。
それぞれのネットワークアドレス／サブネットマスクに対し、右のリストボックスで［Allow］（許可）、または［Deny］（拒否）を設定できます。

補足

サブネットマスク値はネットワークアドレスの左からのビット数を表わします。
たとえば 255.255.255.0 のサブネットマスクに対しては 24 となります。
「192.168.0.0 ／ 24」、「Allow」と設定すれば 192.168.0.0 ～ 192.168.0.255 の IP アドレスのコンピューターに対してアクセスを許可できます。

ご注意

アクセス制限を［Deny］（拒否）に設定された IP アドレスのコンピューターからでも、表示される認証画面で［Level4］のアクセス権に設定したユーザー名とパスワードを入力すると、カメラにアクセスすることができます。

OK/Cancel

「各設定ページの共通ボタン」（17 ページ）をご覧ください。

FTP サーバーへ画像を送信する
– FTP client 設定ページ

管理者設定メニューの［FTP client］をクリックすると、FTP client 設定ページが表示されます。
このページでは、外部センサー入力や内蔵の動体検知機能、マニュアルトリガーボタンと連動して、その時点でキャプチャーされた静止画像やその前後の連続静止画をFTP サーバーに送信することができます（FTP クライアント機能）。また、静止画像を定期的に送信することも可能です。

FTP クライアント機能を ON/OFF する– FTP client usage setting ページ

FTP クライアント機能を使用するときは、［Use FTP client function］を選択し、[OK] をクリックします。
FTP client setting ページが表示されます。
FTP クライアント機能を使用しないときは、［Do Not use FTP client function］を選択し、[OK] をクリックします。

ご注意

FTP クライアント機能によるファイル転送中は、メインビューアーページのモニター画像のフレームレートや操作性が低下します。

FTP クライアント機能の基本設定をする– FTP client setting ページ

FTP server name

アップロードする FTP サーバー名を、半角 64 文字以下で、または FTP サーバーの IP アドレスを入力します。

User name

FTP サーバーに対するユーザー名を入力します。

Password

FTP サーバーに対するパスワードを入力します。

Re-type password

パスワードの確認のため、Password 欄に入力した文字と同じ文字を再入力します。

Remote path

送信先パスを、半角 64 文字以内で入力します。

Image file name

FTP サーバーに送信する画像の基本ファイル名を、半角英数字と - (ハイフン) 、_ （アンダースコア）を使って 6 文字以内で入力します。

Suffix

FTP サーバーに送信されるファイル名に付けるサフィックス（接尾部）を選択します。

[None]：送信されるファイル名は基本ファイル名になります。

[Date/Time]：送信されるファイル名は基本ファイル名に日付／時刻が付加されます。
日付／時刻のサフィックスは、西暦下位（2 桁）＋月（2 桁）＋日 (2 桁）＋時（2 桁）＋分（2 桁）＋秒（2 桁）＋連続番号（2 桁）、合計 14 文字がファイル名に付加されます。

[Sequence number]：送信されるファイル名は基本ファイル名に 0000000000 ～ 4294967295 の 10 桁の連続番号が付加されます。

ご注意

Mode を [Alarm] に設定しているときは、アラームの種類と、アラーム入力とキャプチャーのタイミングを表わす以下のサフィックスが付加されます。
アラームの種類：S1（センサー）、AD（動体検知機能）
キャプチャーのタイミング：PR（アラーム前）、JT（アラームの瞬間）、PT（アラーム後）

Sequence No. clear

[Apply] をクリックすると、Sequence number（連続番号）サフィックスが 0 に戻ります。

Mode

FTP クライアント機能の動作モードを選択します。

[Manual]：マニュアルで FTP サーバーに静止画像を送信します。選択後、[OK] をクリックすると、FTP クライアント機能がマニュアルモードに設定されます。このモードでは、メインビューアーページの トリガーボタンをクリックすると、その時点の静止画像がキャプチャーされ、FTP サーバーに転送されます。（「マニュアルでアプリケーションを操作する」12 ページ）

[Alarm]：外部センサー入力や内蔵の動体検知機能と連動して FTP サーバーに静止画像を送信します。選択すると、Alarm mode 設定部が表示されます（28 ページ）。

ご注意

Suffix を [None] に設定しているときは、[Alarm] モードを選択できません。[Alarm] モードに設定したい場合は、Suffix で [Date/Time] または [Sequence number] を選択してください。

[Periodical sending]：定期的に FTP サーバーに静止画像を送信します。選択すると、Periodical sending mode 設定部が表示されます（29 ページ）。

Back/OK

「各設定ページの共通ボタン」（17 ページ）をご覧ください。

Alarm mode 設定部

Alarm	☑ Sensor	
	☐ Activity detection	Activity detection
Available period	◉ Always ○ Use scheduler	
Schedule No.	☑ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4 ☐ 5 ☐ 6	Schedule check
Alarm buffer configuration	Alarm buffer	
Digest viewer	◉ On ○ Off	
	Back OK	

Alarm

連動するアラームを選択します。選択したアラームを検出すると、その前後の連続静止画が FTP サーバーに送信されます。

[Sensor]：カメラの I/O ポートのセンサー入力に接続されている外部センサー

[Activity detection]：カメラに内蔵の動体検知機能
[Activity detection] ボタンをクリックすると、Activity detection 設定ページが表示され、動体検知機能の設定を行うことができます（41 ページ）。

Available period

選択したアラームモードの動作有効期間を選択します。

[Always]：常にアラームモードが動作します。

[Use scheduler]：下記の Schedule No. で選択したスケジュールに従ってアラームモードが動作します。

Schedule No.

Available period で［Use scheduler］を選択したとき、選択したアラームモードが動作するスケジュールを選択します。
Schedule No. 1 ～ 6 からチェックボックスをクリックしてスケジュールを選択します。
スケジュールを確認したいときは、[Schedule check] をクリックします。（「スケジュールを設定する－ Schedule 設定ページ」41 ページ）

Alarm buffer configuration

[Alarm buffer] をクリックすると、Alarm buffer 設定ページが表示されます。（「アラームバッファを設定する－ Alarm buffer 設定ページ」39 ページ）

ご注意

設定したアラームバッファ処理中に次のアラームが入ると、そのアラーム処理は無視されます。

Digest viewer

［On］を選択すると、選択したアラームが検出されるたびに HTML ファイル（.html）と Java Script ファイル（.js）が付加されます。

付加された HTML ファイルを汎用ブラウザ上で開くと、ダイジェストビューアーが表示され、アラームバッファの連続した静止画像を自動送り（準動画）表示できます。
（「ダイジェストビューアーを操作する」29 ページ）

Periodical sending mode 設定部

Interval time	00 H 10 M 00 S	
Available period	◉ Always ○ Use scheduler	
Schedule No.	☑1 ☐2 ☐3 ☐4 ☐5 ☐6	Schedule check
Backup sending mode	◉ On ○ Off	
	Backup interval time	00 H 00 M 01 S
	Built-in memory	Free space : 8315392byte
	Log	View
		Clear
Back	OK	

Interval time

FTP サーバーに定期的に画像を送信する時間間隔を設定します。
最短 1 秒間隔、最長 24 時間（1 日）が設定できます。

ご注意

画像サイズやネットワーク環境などにより、実際に送信される間隔は、設定した間隔より長くなる場合があります。

Available period

Periodical sending モードの動作有効期間を選択します。

[Always]：常に Periodical sending モードが動作します。

[Use scheduler]：下記の Schedule No. で選択したスケジュールに従って Periodical sending モードが動作します。

Schedule No.

Available period で［Use scheduler］を選択したとき、Periodical sending モードが動作するスケジュールを選択します。
Schedule No. 1 ～ 6 からチェックボックスをクリックしてスケジュールを選択します。
スケジュールを確認したいときは、[Schedule check] をクリックします。（「スケジュールを設定する－ Schedule 設定ページ」41 ページ）

Backup sending mode

ネットワーク回線障害などが発生し、一時的に FTP サーバーへのアップロードができない場合に、内蔵の Built-in memory（約 8 MB）に静止画像データをバックアップすることができます。ネットワーク回線が正常に復帰すると、バックアップした静止画像データを FTP サーバーへアップロードします。

[Periodical sending] が選択されているときのみ、この機能をお使いになれます。

[On] を選択すると、Backup 機能が有効になります。

ご注意

- イメージメモリー機能（36 ページ）を ON に設定しているときは Backup sending mode を [On] に設定できません。Backup 機能をお使いになるときはイメージメモリー機能を OFF にしてください。
- バックアップメモリ容量が不足した場合、またはバックアップしている画像枚数が 2560 枚を超えた場合は、時刻の古い画像が保存され、新しい画像データはバックアップされません。
- カメラの電源を切ると、バックアップした画像データは消去されます。

Backup interval time

バックアップした画像データを FTP サーバーへ送信するときの、時間間隔を設定します。最短は 1 秒間隔、最長は Interval time で設定した時間間隔が設定できます。

ご注意

画像サイズやネットワーク環境などにより、実際に送信される間隔は、設定した間隔より長くなる場合があります。

Built-in memory

本カメラの内蔵メモリーの空き容量を表示します。

Log

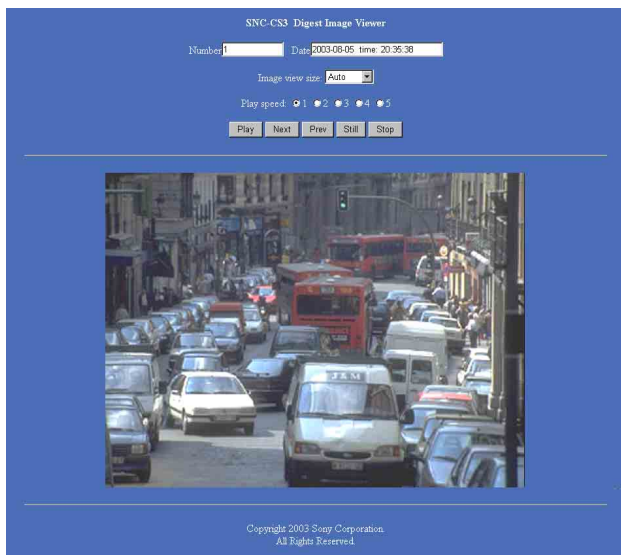
[View] をクリックすると Backup FTP log のページが表示されます。ネットワーク回線障害の発生やネットワーク回線復帰のイベント情報などが表示されます。
[Clear] をクリックするとログ情報は消去されます。

ご注意

カメラの電源を切ると、ログ情報は消去されます。

ダイジェストビューアーを操作する

表示させたい HTML ファイルと Java Script ファイル、JPEG 画像ファイル群をコンピューターにダウンロードし、ブラウザで HTML ファイルを開くと、ダイジェストビューアーが表示されます。

ダイジェストビューアー

Number

連続した静止画像番号を表示します。

Date

画像がキャプチャーされた日付と時刻を表示します。

Image view size

ビューアーに表示する画像のサイズを［Auto］、［160 × 120］、［320 × 240］、［640 × 480］の中から選択します。
[Auto] を選択したときは、Camera 設定ページの Image size（20 ページ）で設定した画像サイズで表示されます。

Play speed

再生速度を［1］～［5］の中から選択します。［5］が最速です。

ご注意

コンピューターの性能により、再生速度を早く設定すると再生できない場合があります。この場合は、再生速度を遅くしてください。

Play

クリックすると、再生が始まります。最終静止画像表示後、再生は止まります。

Next

静止画像モード時、クリックすると次の番号の静止画像が表示されます。

Prev

静止画像モード時、クリックすると 1 つ前の番号の静止画像が表示されます。

Still

再生中にクリックすると、一時停止します。

Stop

クリックすると、Number 1 の静止画像が表示されます。

カメラから画像をダウンロードする
– FTP server 設定ページ

管理者設定メニューの［FTP server］をクリックすると、FTP server 設定ページが表示されます。
このページでは、コンピューターの FTP クライアントソフトウェアを使用して、本カメラに内蔵のメモリー（約 8MB）に記録された静止画像ファイルを検索したり、ダウンロードする FTP サーバー機能の設定を行います。

FTP サーバー機能を ON/OFF する – FTP server usage setting ページ

FTP サーバー機能を使用するときは、［Use FTP server function］を選択し、［OK］をクリックします。FTP server setting ページが表示されます。
FTP サーバー機能を使用しないときは、［Do not use FTP server function］を選択し、［OK］をクリックします。

ご注意

FTP サーバー機能を使用すると、メインビューアー画面のモニター画像のフレームレートや操作性が低下します。

FTP サーバー機能の基本設定をする – FTP server setting ページ

コンピューターの FTP クライアントソフトウェアからログインを許可するユーザー名とパスワードを登録します。
10 種類のユーザー名とパスワードが登録できます。

FTP server setting

Built-in memory	Free space : 8315392byte	
User ID	Password	Re-type password
admin	*****	*****

Back　OK

Built-in memory

本カメラの内蔵メモリーの空き容量を表示します。

User ID

ユーザー名を 4 〜 16 文字の半角英数字で入力します。

Password

パスワードを 4 〜 16 文字の半角英数字で入力します。

Re-type password

パスワードの確認のために、Password 欄に入力した文字と同じ文字を再入力します。

Back/OK

「各設定ページの共通ボタン」（17 ページ）をご覧ください。

E メールに画像を添付して送る
− SMTP 設定ページ

管理者設定メニューの［SMTP］をクリックすると、SMTP 設定ページが表示されます。
このページでは、外部センサー入力や内蔵の動体検知機能、マニュアルトリガーボタンと連動して、その時点でキャプチャーされた静止画像を E メールに添付して送信するための設定を行います。また、静止画像を定期的に送信することも可能です。

SMTP 機能を ON/OFF する− SMTP usage setting ページ

SMTP usage setting	
	○ Use SMTP function
	◉ Do not use SMTP function
OK Cancel	

SMTP 機能を使用するときは、［Use SMTP function］を選択し、［OK］をクリックします。SMTP setting ページが表示されます。
SMTP 機能を使用しないときは、［Do not use SMTP function］を選択し、［OK］をクリックします。

ご注意

E メールで画像ファイルを送信中は、メインビューアーページのモニター画像のフレームレートや操作性が低下します。

SMTP 機能の基本設定をする − SMTP setting ページ

SMTP setting	
SMTP server name	smtp.yoursmtpserver.com
Recipient e-mail address	your_mail@yourmail.com
	user1_mail@yourmail.com
	user2_mail@yourmail.com
Administrator e-mail address	your_mail@yourmail.com
Subject	Test
Message	Captured image.
Image file name	image
Suffix	○ None ◉ Date/Time ○ Sequence number
Sequence No. clear	Apply
Mode	◉ Manual ○ Alarm ○ Periodical sending
Back OK	

SMTP server name

SMTP メールサーバー名を、半角 64 文字以内で、または SMTP メールサーバーの IP アドレスを入力します。

Recipient e-mail address

送信先のメールアドレスを半角 64 文字以内で入力します。
3 送信先まで入力できます。

Administrator e-mail address

管理者のメールアドレスを、半角 64 文字以内で入力します。
メールの返信および本カメラのエラーメッセージ返信の宛先となります。

Subject

メールの件名／題名を半角 64 文字以内で入力します。

Message

メールの本文を半角 384 文字以内（改行は 2 文字換算）で入力します。

Image file name

E メールに添付して送信する画像の基本ファイル名を、半角英数字と - (ハイフン)、_ （アンダースコア）を使って 6 文字以内で入力します。

Suffix

E メールに添付して送信されるファイル名に付けるサフィックス（接尾部）を選択します。

[None]：送信されるファイル名は基本ファイル名になります。

[Date/Time]：送信されるファイル名は基本ファイル名に日付／時刻が付加されます。
日付／時刻のサフィックスは、西暦下位（2 桁）＋月（2 桁）＋日（2 桁）＋時（2 桁）＋分（2 桁）＋秒（2 桁）、合計 12 文字がファイル名に付加されます。

[Sequence number]：送信されるファイル名は基本ファイル名に 0000000000 ～ 4294967295 の 10 桁の連続番号が付加されます。

Sequence No. clear

[Apply] をクリックすると、Sequence number（連続番号）サフィックスが 0 に戻ります。

Mode

SMTP 機能の動作モードを選択します。

[Manual]：マニュアルで静止画像を添付した E メールを送信します。選択後、[OK] をクリックすると、SMTP 機能がマニュアルモードに設定されます。
このモードでは、メインビューアーページの トリガーボタンをクリックすると、その時点の静止画像がキャプチャーされ、E メールに添付して転送されます。（「マニュアルでアプリケーションを操作する」12 ページ）

[Alarm]：外部センサー入力や内蔵の動体検知機能と連動して静止画像を添付した E メールを送信します。選択すると、Alarm mode 設定部が表示されます。（33 ページ）

[Periodical sending]：定期的に静止画像を添付した E メールを送信します。選択すると、Periodical sending mode 設定部が表示されます。（34 ページ）

Back/OK

「各設定ページの共通ボタン」（17 ページ）をご覧ください。

Alarm mode 設定部

Alarm	☑ Sensor	
	☐ Activity detection	Activity detection
Available period	◉ Always ○ Use scheduler	
Schedule No.	☑ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4 ☐ 5 ☐ 6	Schedule check
	Back OK	

Alarm

連動するアラームを選択します。選択したアラームが検出されると、その瞬間の静止画像が E メールに添付されて送信されます。

[Sensor]：カメラの I/O ポートのセンサー入力に接続されている外部センサー

[Activity detection]：カメラに内蔵の動体検知機能
[Activity detection] ボタンをクリックすると、Activity detection 設定ページが表示され、動体検知機能の設定を行うことができます（41 ページ）。

ご注意

E メールに添付される画像は、アラーム入力があった瞬間の画像 1 枚です。アラーム入力による画像処理中に次のアラーム入力があった場合、そのアラームは無視されます。

Available period

SMTP 機能のアラームモードの動作有効期間を選択します。

[Always]：常にアラームモードが動作します。

[Use scheduler]：下記の Schedule No. で選択したスケジュールに従ってアラームモードが動作します。

Schedule No.

Available period で［Use scheduler］を選択したとき、SMTP 機能のアラームモードが動作するスケジュールを選択します。
Schedule No. 1 ～ 6 からチェックボックスをクリックしてスケジュールを選択します。
スケジュールを確認したいときは、[Schedule check] をクリックします。（「スケジュールを設定する－ Schedule 設定ページ」41 ページ）

Periodical sending mode 設定部

Interval time	01 H 00 M (More than 30 min)	
Available period	◉ Always ○ Use scheduler	
Schedule No.	☑1 ☐2 ☐3 ☐4 ☐5 ☐6	Schedule check
	Back OK	

Interval time

定期的に画像を添付して E メールを送信する時間間隔を設定します。
最短 30 分間隔、最長 24 時間（1 日）が設定できます。

Available period

Periodical sending モードの動作有効期間を選択します。

[Always]：常に Periodical sending モードが動作します。

[Use scheduler]：下記の Schedule No. で選択したスケジュールに従って Periodical sending モードが動作します。

Schedule No.

Available period で［Use scheduler］を選択したとき、Periodical sending モードが動作するスケジュールを選択します。
Schedule No. 1 ～ 6 からチェックボックスをクリックしてスケジュールを選択します。
スケジュールを確認したいときは、[Schedule check] をクリックします。（「スケジュールを設定する－ Schedule 設定ページ」41 ページ）

アラーム出力 1、2 を設定する－ Alarm out 1、2 設定ページ

管理者設定メニューの［Alarm out 1］をクリックすると、Alarm out 1 設定ページが表示されます。［Alarm out 2］をクリックすると、Alarm out 2 設定ページが表示されます。
このページでは、マニュアルトリガーボタンや外部センサー入力、タイマーに連動して、カメラ後部の I/O ポートのアラーム出力 1 またはアラーム出力 2 を制御するための設定を行います。
アラーム出力 1 とアラーム出力 2 で設定できる内容は同じです。ここでは、アラーム出力 1 を例として説明しています。

アラーム出力 1 機能を ON/OFF する－ Alarm out 1 usage setting ページ

アラーム出力 1 機能を使用するときは、［Use alarm out 1 function］を選択し、［OK］をクリックします。
Alarm out 1 setting ページが表示されます。
アラーム出力 1 機能を使用しないときは、［Do not use alarm out 1 function］を選択し、［OK］をクリックします。

アラーム出力 1 機能の基本設定をする－ Alarm out 1 setting ページ

Mode

アラーム出力 1 機能の動作モードを選択します。

[Manual]：マニュアルでアラーム出力 1 を制御できます。
このモードでは、メインビューアーページの トリガーボタンをクリックするたびにアラーム出力 1 の開放と短絡が切り換わります。（「マニュアルでアプリケーションを操作する」12 ページ）

[Alarm]：外部センサー入力や内蔵の動体検知機能と連動してアラーム出力 1 を制御できます。選択すると、Alarm mode 設定部が表示されます（35 ページ）。

[Timer]：時刻と連動してアラーム出力 1 を制御できます。選択すると、Timer mode 設定部が表示されます。（35 ページ）

Alarm mode 設定部

Alarm	☑ Sensor	
	☐ Activity detection	Activity detection
Available period	◉ Always ○ Use scheduler	
Schedule No.	☑ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4 ☐ 5 ☐ 6	Schedule check
Alarm duration	1 ▼	
	Back OK	

Alarm

連動するアラームを選択します。選択したアラームの検出と連動してアラーム出力 1 を制御できます。

[Sensor]：カメラの I/O ポートのセンサー入力に接続されている外部センサー

[Activity detection]：カメラに内蔵の動体検知機能
[Activity detection] ボタンをクリックすると、Activity detection 設定ページが表示され、動体検知機能の設定を行うことができます（41 ページ）。

Available period

アラーム出力 1 機能のアラームモードの動作有効期間を選択します。

[Always]：常にアラームモードが動作します。

[Use scheduler]：下記の Schedule No. で選択したスケジュールに従ってアラームモードが動作します。

Schedule No.

Available period で［Use scheduler］を選択したとき、アラームモードが動作するスケジュールを選択します。
Schedule No. 1 ～ 6 からチェックボックスをクリックしてスケジュールを選択します。
スケジュールを確認したいときは、[Schedule check] をクリックします。（「スケジュールを設定する－ Schedule 設定ページ」41 ページ）

Alarm duration

アラーム出力 1 を短絡する時間（1 ～ 60 sec）を選択します。

Timer mode 設定部

Schedule No.	☑ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4 ☐ 5 ☐ 6	Schedule check
	Back OK	

Schedule No.

アラーム出力 1 のタイマーモードが動作するスケジュールを選択します。
Schedule No. 1 ～ 6 からチェックボックスをクリックしてスケジュールを選択します。選択したスケジュールの開始時刻になるとアラーム出力 1 が短絡し、終了時刻になるとアラーム出力 1 が開放になります。
スケジュールを確認したいときは、[Schedule check] をクリックします。（「スケジュールを設定する－ Schedule 設定ページ」41 ページ）

メモリーに画像を記録する－Image memory 設定ページ

管理者設定メニューの［Image memory］をクリックすると、Image memory 設定ページが表示されます。
このページでは、外部センサー入力や内蔵の動体検知機能、マニュアルトリガーボタンと連動して、その瞬間にキャプチャーされた静止画像をカメラの内部メモリー（約 8MB）に記録するイメージメモリー機能の設定を行います。また、静止画像を定期的に送信することも可能です。
記録された画像ファイルは、FTP サーバー機能を使用して、検索したり、コンピューターへダウンロードすることができます。（「カメラから画像をダウンロードする － FTP server 設定ページ」31 ページ）

イメージメモリー機能の ON/OFF と基本設定をする－ Image memory usage setting ページ

Built-in memory

本カメラの内蔵メモリーの空き容量を表示します。

Use image memory function/Do not use image memory function

イメージメモリー機能を使用するときは、［Use image memory function］を選択します。［OK］をクリックすると、Image memory setting ページが表示されます。
イメージメモリー機能を使用しないときは、［Do not use image memory function］を選択し、［OK］をクリックします。

ご注意

- 内蔵メモリーに記録された画像は電源を切ると消えます。
- 画像の記録中は、メインビューアーページのモニター画像のフレームレートや操作性が低下します。
- FTP クライアント機能の Backup sending mode（29 ページ）を [On] に設定しているときは、イメージメモリー機能を ON に設定できません。イメージメモリー機能をお使いになるときは、Backup sending mode を [Off] に設定してください。

メモリーに画像を記録する－ Image memory setting ページ

Image file name

メモリーに記録される画像の基本ファイル名を、半角英数字と - (ハイフン)、_ （アンダースコア）を使って 6 文字以内で入力します。

Suffix

メモリーに記録されるファイル名に付けるサフィックス（接尾部）を選択します。

[None]：記録されるファイル名は基本ファイル名になります。

[Date/Time]：記録されるファイル名は基本ファイル名に日付／時刻が付加されます。
日付／時刻のサフィックスは、西暦下位（2 桁）＋月（2 桁）＋日（2 桁）＋時（2 桁）＋分（2 桁）＋秒（2 桁）＋連続番号（2 桁)、合計 14 文字がファイル名に付加されます。

[Sequence number]：記録されるファイル名は基本ファイル名に 0000000000 ～ 4294967295 の 10 桁の連続番号が付加されます。

ご注意

Mode を [Alarm] に設定しているときは、アラームの種類とアラーム入力とキャプチャーのタイミングを表わすサフィックスが付加されます。
アラームの種類：S1（センサー）、AD（動体検知機能）
キャプチャーのタイミング：PR（アラーム前）、JT（アラームの瞬間）、PT（アラーム後）

Sequence No. clear

[Apply] をクリックすると、Sequence number（連続番号）サフィックスが 0 に戻ります。

Overwrite

メモリーの空き容量がなくなりファイルの記録ができなくなった場合、上書きするかどうかを選択します。
［On］を選択すると、上書き許可となり、日付の古いフォルダー（ファイル）から上書きされます。
［Off］を選択すると、上書き禁止となり、メモリーに記録されません。

Capacity warning

イメージメモリー機能の動作により、メモリーの空き容量が少なくなってきたり、メモリーがいっぱいになった場合に管理者宛に警告メールを送信する機能です。[On] を選択すると警告メールを送信します。下欄に SMTP server name と Administrator e-mail address の設定欄が表示されます。[Off] を選択すると警告メールは送信されません。

SMTP server name

メール送信に使用する SMTP サーバー名または SMTP サーバーの IP アドレスを半角 64 文字以内で入力します。

Administrator e-mail address

警告メールの送信先のメールアドレス (管理者メールアドレス) を半角 64 文字以内で入力します。

Mode

イメージメモリー機能の動作モードを選択します。

[Manual]：メモリーにマニュアルで静止画像を記録します。
このモードでは、メインビューアーページの トリガーボタンをクリックすると、その時点の静止画像がキャプチャーされ、メモリーに記録されます。（「マニュアルでアプリケーションを操作する」12 ページ）

[Alarm]：外部センサー入力や内蔵の動体検知機能と連動してメモリーに静止画像を記録します。選択すると、Alarm mode 設定部が表示されます（37 ページ）。

ご注意

Suffix を [None] に設定しているときは、[Alarm] モードを選択できません。[Alarm] モードに設定したい場合は、Suffix で [Date/Time] または [Sequence number] を選択してください。

[Periodical recording]：メモリーに定期的に静止画像を記録します。選択すると、Periodical recording mode 設定部が表示されます（38 ページ）。

Alarm mode 設定部

Alarm	☑ Sensor	
	☐ Activity detection	Activity detection
Available period	◉ Always ○ Use scheduler	
Schedule No.	☑ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4 ☐ 5 ☐ 6	Schedule check
Alarm buffer configuration	Alarm buffer	
Digest viewer	◉ On ○ Off	
	Back OK	

Alarm

連動するアラームを選択します。選択したアラームの検出と連動してキャプチャーされた静止画像を選択したメモリーに記録します。

[Sensor]：カメラの I/O ポートのセンサー入力に接続されている外部センサー

[Activity detection]：カメラに内蔵の動体検知機能
[Activity detection] ボタンをクリックすると、Activity detection 設定ページが表示され、動体検知機能の設定を行うことができます（41 ページ）。

Available period

イメージメモリー機能のアラームモードの動作有効期間を選択します。

[Always]：常にアラームモードが動作します。

[Use Scheduler]：下記の Schedule No. で選択したスケジュールに従ってアラームモードが動作します。

Schedule No.

Available period で［Use scheduler］を選択したとき、イメージメモリー機能のアラームモードが動作するスケジュールを選択します。
Schedule No. 1 ～ 6 からチェックボックスをクリックしてスケジュールを選択します。
スケジュールを確認したいときは、[Schedule check] をクリックします。（「スケジュールを設定する－ Schedule 設定ページ」41 ページ）

Alarm buffer configuration

[Alarm buffer] をクリックすると、Alarm buffer 設定ページが表示されます。（「アラームバッファを設定する－ Alarm buffer 設定ページ」39 ページ）

ご注意

設定したアラームバッファ処理中に次のアラームが入ると、そのアラーム処理は無視されます。

Digest viewer

［On］を選択すると、選択したアラームが検出されるたびに HTML ファイル (.html) と Java Script ファイル (.js) が付加されます。

付加された HTML ファイルを汎用ブラウザ上で開くと、ダイジェストビューアーが表示され、アラームバッファの連続した静止画像を自動送り（準動画）表示できます。(「ダイジェストビューアーを操作する」29 ページ)

Periodical recording mode 設定部

Interval time	00 H 10 M 00 S
Available period	◉ Always ○ Use Scheduler
Schedule No.	☑ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4 ☐ 5 ☐ 6 [Schedule check]
Digest viewer	○ On ◉ Off
[Back] [OK]	

Interval time

定期的に画像を記録する時間間隔を設定します。
最短 1 秒間隔、最長 24 時間（1 日）が設定できます。

ご注意

画像サイズなどにより、実際に記録される間隔は、設定した間隔より長くなる場合があります。

Available period

イメージメモリー機能の Periodical recording モードの動作有効期間を選択します。

[Always]：常に Periodical recording モードが動作します。

[Use scheduler]：下記の Schedule No. で選択したスケジュールに従って Periodical recording モードが動作します。

Schedule No.

Available period で［Use scheduler］を選択したとき、Periodical recording モードが動作するスケジュールを選択します。
Schedule No. 1 ～ 6 からチェックボックスをクリックしてスケジュールを選択します。
スケジュールを確認したいときは、[Schedule check] をクリックします。(「スケジュールを設定する－ Schedule 設定ページ」41 ページ)

Digest viewer

［On］を選択すると、HTML ファイル (.html) と Java Script ファイル（.js）が 100 ファイルごとに自動的に付加されます。
付加された HTML ファイルを汎用ブラウザ上で開くと、ダイジェストビューアーが表示され、アラームバッファの連続した静止画像を自動送り（準動画）表示できます。(「ダイジェストビューアーを操作する」29 ページ)

ご注意

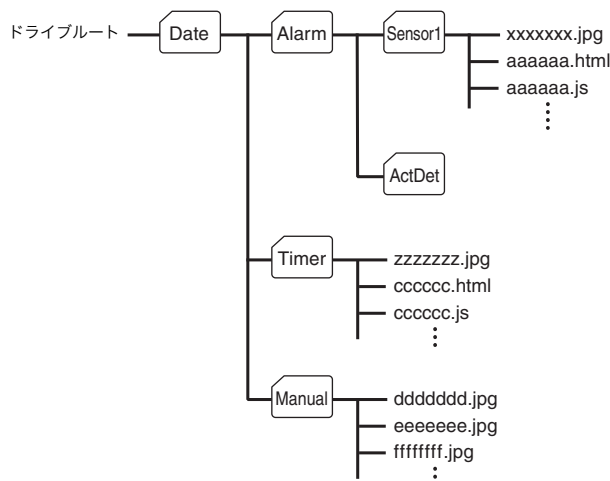
Suffix を [None] に設定しているときは、[On] を選択できません。ダイジェストビューアーを使用したい場合は、Suffix で [Date/Time] または [Sequence number] を選択してください。

Back/OK

「各設定ページの共通ボタン」（17 ページ）をご覧ください。

画像メモリーのディレクトリー構造

メモリーに画像を記録すると、以下のようなディレクトリー構造で記録されます。

Built-in memory：C ドライブ
C ドライブ内は以下のようなディレクトリー構造になっています。

□ は、自動的に生成されるフォルダーを表わします。
また、日付 (Date) フォルダーは西暦（下位２桁）＋月（2 桁）＋日（2 桁）の 6 桁数値のフォルダー名になります。
[Sensor]、[ActDet] はアラームに対応するフォルダー、[Timer] は Periodical recording モードに対応するフォルダー、[Manual] はマニュアルモードに対応するフォルダーです。
それぞれのフォルダーに JPEG 画像ファイルが保存されます。また、ダイジェストビューアーを許可した場合は、アラームには、それぞれのイベントごとに HTML ファイル（.html）と Java Script ファイル（.js）が自動生成されます。
Periodical recording モードの場合は、JPEG 画像ファイル 100 画像ごとに HTML ファイル（.html）と Java Script ファイル（.js）が自動生成されます。

アラームバッファを設定する– Alarm buffer 設定ページ

管理者設定メニューの［Alam buffer］をクリックすると、Alarm buffer setting ページが表示されます。
このページでは、FTP クライアント機能（27 ページ）やイメージメモリー機能（36 ページ）で使用されるアラームバッファの設定を行います。

Recording interval

アラームバッファに記録する間隔（秒）をリストボックスから選択します。
以下の間隔を設定できます。
1/30, 1/15, 1/10, 1/5, 1/2, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10（秒）

Pre-alarm images

アラームが検出される前（プリアラーム）の記録画像枚数を設定します。

Post-alarm images

アラームが検出された後（ポストアラーム）の記録画像枚数を設定します。

Maximum alarm images

現在設定されている画像サイズと画質で記録できるアラーム画像枚数の最大値を表示します。

ご注意

Maximum alarm images の値は、Camera 設定ページで設定した画像サイズ（Image size）と画質（Image quality）により変わります。
Pre-alarm images と Post-alarm images は、両方の枚数の和が Maximum alarm images の枚数を超えないように設定してください。
Pre-alarm images と Post-alarm images の両方とも [0] に設定すると、アラームが検出された瞬間の画像 1 枚のみが記録されます。

OK/Cancel

「各設定ページの共通ボタン」（17 ページ）をご覧ください。

シリアル接続機器とデータの送受信を行う
– Serial 設定ページ

管理者設定メニューの［Serial］をクリックすると、Serial 設定ページが表示されます。
このページでは、コンピューターからネットワーク経由でカメラに入力されたデータを外部シリアルインターフェースに出力して周辺接続機器をコントロールしたり、逆に周辺接続機器から外部シリアルインターフェースを通じて入力されたデータを、ネットワーク経由でコンピューターに出力するための設定を行います。
カメラに接続した周辺機器に合わせて設定してください。
本カメラの外部シリアルインターフェースは RS-232C 規格に対応しています。

Serial setting	
Mode	○ HTTP ◉ TCP
TCP port No.	40000 (1024 to 65535)
Baud rate	9600 bps
Parity bit	none
Character length	8 bits
Stop bits	1 bits
	OK Cancel

Mode

ネットワーク経由でのデータの送受信を行うとき、HTTP ポート（HTTP Generic Driver）を使用するか、TCP ポート（TCP Generic Driver）を使用するかを選択します。

[HTTP]：HTTP を選択したときは、たとえば、コンピューター上で HTML でプログラムを作成し、その中に CGI コマンドを埋め込むことにより、データ送受信を実現できます。
CGI コマンドに関しては、お買い上げ店またはお近くのソニーのサービス窓口にお問い合わせください。

[TCP]：TCP を選択したときは、TCP Port No. でポート番号を指定すると、外部シリアル通信ポートの入出力データの送受信ができます。DOS コマンド「telnet [ホスト名] [設定ポート番号]」によって簡単に確認できます。

TCP port No.

Mode で［TCP］を選択したとき、TCP ポート（TCP Generic Driver）に対応するポート番号を入力します。
Well-Known ポート番号（0 ～ 1023）以外のポート番号を設定してください。

Baud rate

シリアル接続した周辺機器に対応する通信ボーレートを選択します。
以下のボーレートが選択できます。
38400, 19200, 9600, 4800, 2400, 1200, 600, 300 (bps)

Parity bit

シリアル接続した周辺機器に対応するパリティを［None］、［Odd］、［Even］から選択します。

Character length

シリアル接続した周辺機器に対応するキャラクター長［7］または［8］（bits) を選択します。

Stop bits

シリアル接続した周辺機器に対応するストップビット［1］または［2］(bits) を選択します。

OK/Cancel

「各設定ページの共通ボタン」（17 ページ）をご覧ください。

スケジュールを設定する – Schedule 設定ページ

管理者設定メニューの［Schedule］をクリックすると、Schedule 設定ページが表示されます。
FTP クライアント機能、SMTP 機能、アラーム出力 1、2 機能、イメージメモリー機能に使用する最大 6 種類のスケジュールをこのページで設定します。

Schedule setting	
Schedule No.	Time table (00:00 to 24:00)
No. 1	Start time: 00 H 00 M - End time: 24 H 00 M ☑ Mon ☑ Tue ☑ Wed ☑ Thu ☑ Fri ☐ Sat ☐ Sun
No. 2	Start time: 00 H 00 M - End time: 24 H 00 M ☑ Mon ☑ Tue ☑ Wed ☑ Thu ☑ Fri ☐ Sat ☐ Sun
No. 3	Start time: 00 H 00 M - End time: 24 H 00 M ☑ Mon ☑ Tue ☑ Wed ☑ Thu ☑ Fri ☐ Sat ☐ Sun
No. 4	Start time: 00 H 00 M - End time: 24 H 00 M ☑ Mon ☑ Tue ☑ Wed ☑ Thu ☑ Fri ☐ Sat ☐ Sun
No. 5	Start time: 00 H 00 M - End time: 24 H 00 M ☑ Mon ☑ Tue ☑ Wed ☑ Thu ☑ Fri ☐ Sat ☐ Sun
No. 6	Start time: 00 H 00 M - End time: 24 H 00 M ☑ Mon ☑ Tue ☑ Wed ☑ Thu ☑ Fri ☐ Sat ☐ Sun
OK Cancel	

Schedule No. 1 ～ Schedule No. 6

スケジュールごとに、Start time（動作開始時刻（時、分））、End time（動作終了時刻（時、分））を設定し、動作させたい曜日をチェックボックスで選択します。

OK/Cancel

「各設定ページの共通ボタン」（17 ページ）をご覧ください。

動体検知機能を設定する – Activity detection 設定ページ

管理者設定メニューの［Activity detection］をクリックすると、Activity detection 設定ページが表示されます。
動体検知機能は各アプリケーションに連動させることができます。

Sensitivity

動体検知の感度をリストボックスから選択します。
［Level 1］～［Level 9］が選択できます。［Level 9］が最大感度です。

補足

動体検知の感度とは、動体検知エリア全体画素に対して変化したエリア（画素）の割合です。

OK/Cancel

「各設定ページの共通ボタン」（17 ページ）をご覧ください。

動体検知領域を設定する

以下の手順で動体検知機能が働く領域を設定します。

1 動体検知を行いたい画角をズームを操作して決定する。

2 管理者設定メニューの［Activity detection］をクリックする。
静止画像がキャプチャーされ、Activity detection 設定ページが表示されます。

3 表示された静止画像上でマウスの左ボタンを押し続けて対角線方向にドラッグする。
赤い枠で囲まれたエリアが動体検知の対象になります。
工場出荷時は全領域が対象エリアに指定されています。

ご注意

動体検知機能（Activity detection）をお使いのときは、あらかじめ動作テストを行い、正常に動作することを確認してからお使いください。

また、以下の場合、動体検知機能が正常に動作しないことがあります。

- Camera setting ページでカメラの設定変更を行っているとき
- 被写体が暗いとき
- カメラが設置された場所が不安定で、カメラが振動するとき

ポップアップ画面を表示する
－ Pop-up 設定ページ

管理者設定メニューの［Pop-up］をクリックすると、Pop-up 設定ページが表示されます。
このページでは、カメラ画像をモニターしているコンピューター画面上に、任意のテキストを入力したポップアップ画面を表示させたり、アラーム入力があったとき、自動的にポップアップ画面を表示させるための設定を行います。

Manual pop-up text

ポップアップ画面に表示するテキスト文を半角 1 ～ 64 文字で入力します。
[Apply] をクリックすると、カメラ画像をモニターしているすべてのコンピューター画面上に、ポップアップ画面が表示されます。

Alarm pop-up text

Display mode

アラーム入力があったとき、ポップアップ画面を表示させるコンピューターを選択します。

[Administrator] ：管理者としてログインしてカメラ画像をモニターしているコンピューター画面にのみポップアップ画面を表示します。

[All users] ：カメラ画像をモニターしているすべてのコンピューター画面上にポップアップ画面を表示します。

Sensor/Activity detection

それぞれのセンサーによるアラームに対してポップアップ画面を表示させるときは［On］、表示させないときは［Off］を選択します。
各項目のテキストボックスには、ポップアップ画面に表示するテキスト文を半角 1 ～ 64 文字で入力します。

OK/Cancel

「各設定ページの共通ボタン」（17 ページ）をご覧ください。

付属のセットアッププログラムを使う

ネットワークを介してカメラに接続するためには、カメラに新しい IP アドレスを割り当てる必要があります。初めてカメラを設置したときは、カメラに IP アドレスを割り当ててください。
IP アドレスの割り当ての方法には、次の 2 とおりがあります。

- 付属の CD-ROM に収録されているセットアッププログラムを使う (下記)
- ARP (Address Resolution Protocol) コマンドを使う (46 ページ)

ここでは、付属のセットアッププログラムを使って IP アドレスを割り当て、ネットワーク設定をする方法を説明します。
付属のセットアッププログラムでは、ネットワーク設定のほかに通信帯域の制限や、日付・時刻の設定もできます。

操作の前に、付属の設置説明書の「カメラに IP アドレスを割り当てる」をご覧になって、カメラをコンピューターまたはネットワークに接続してください。

セットアッププログラムを使ってカメラに IP アドレスを設定する

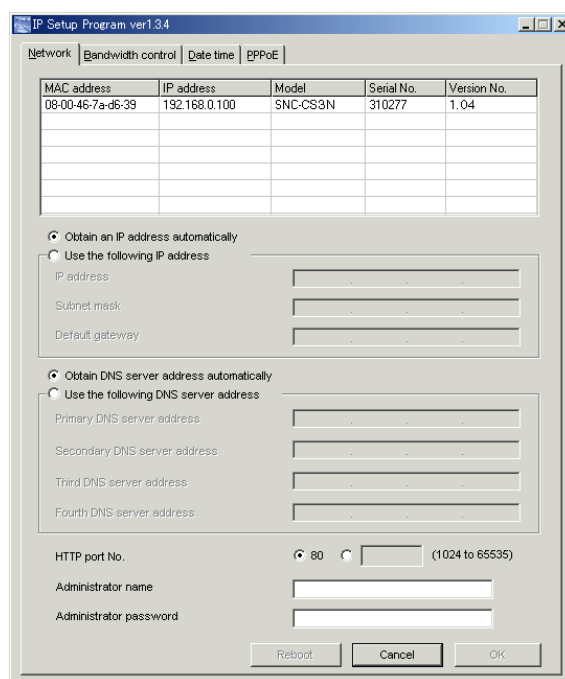
1 付属の CD-ROM をコンピューターの CD-ROM ドライブに入れる。

2 CD-ROM ドライブ内の Setup フォルダをダブルクリックして開く。

3 Setup.exe をダブルクリックする。

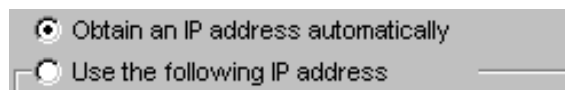
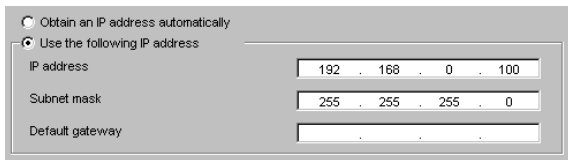
4 画面に表示されるウィザードに従って「IP Setup Program」をインストールする。
使用許諾に関する文面が表示されたら、よくお読みいただき、同意の上、インストールを行ってください。

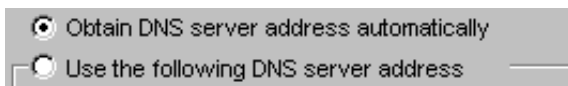
5 IP Setup Program を起動する。

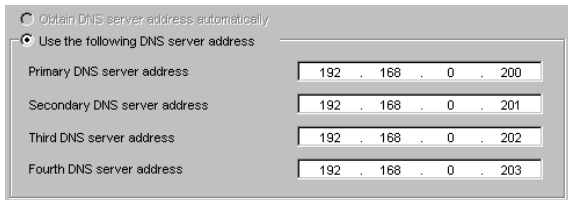
Network タブが表示され、IP Setup Program がローカルネットワーク上に接続されている SNC-CS3 カメラを検出してリスト表示します。

6 リストから IP アドレスを割り当てたいカメラをクリックして選択する。
選択されたカメラのネットワーク設定状況が画面に表示されます。

MAC address	IP address	Model	Serial No.	Version No.
08-00-46-7a-d6-39	192.168.0.100	SNC-CS3N	310277	1.04

7 IP アドレスを設定する。

IP アドレスを DHCP サーバーから自動的に取得するときは
[Obtain an IP address automatically] を選択します。

IP address（IP アドレス）、Subnet mask（サブネットマスク）、Default gateway（デフォルトゲートウェイ）が自動的に割り当てられます。

固定 IP アドレスを設定するときは

［Use the following IP address］を選択し、IP address、Subnet mask、Default gateway 欄にそれぞれの値を入力します。

8 サーバーアドレスを設定する。

DNS サーバーアドレスを自動取得するには

［Obtain DNS server address automatically］を選択します。

Obtain DNS server address automatically
Use the following DNS server address

DNS サーバーアドレスを自動取得しないときは

［Use the following DNS server address］を選択してから、Primary DNS server address および Secondary DNS server address 欄に DNS サーバーアドレスを入力します。

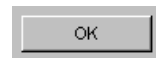
ご注意

本機では Third DNS server address、Fourth DNS server address 欄は入力しても無効です。

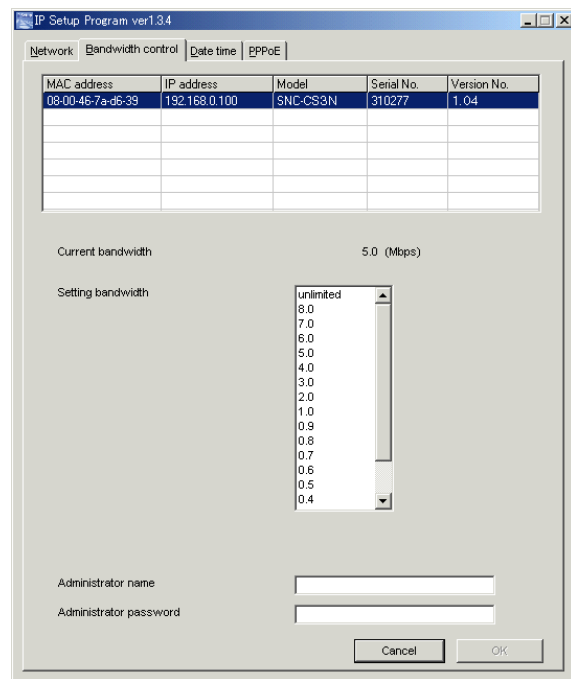
9 HTTP ポート番号を設定する。

HTTP port No.　80　(1024 to 65535)

通常は、HTTP port No. の［80］を選択します。［80］以外のポート番号に設定するときは、テキストボックスを選択し、ポート番号 1024 ～ 65535 を入力します。

10 Administrator name と Administrator password 欄に管理者の名前とパスワードを入力する。

工場出荷時は、両方とも「admin」に設定されています。

ご注意

ここでは、管理者の名前とパスワードの変更はできません。
変更のしかたは、「ユーザー設定をする－ User 設定ページ」（25 ページ）をご覧ください。

11 正しく設定されていることを確認してから［OK］をクリックする。

「Setting OK」が表示されれば、IP アドレスの設定は終了です。

通信帯域を変更する

1 Bandwidth control タブをクリックして帯域制限設定画面を表示する。
現在設定されている帯域制限が Current bandwidth 欄に表示されます。

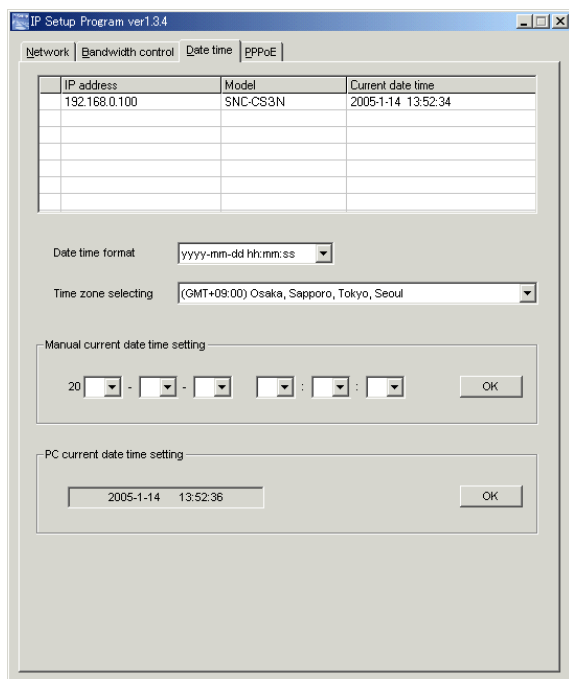
2 Setting bandwidth リストボックスから、変更したい帯域制限をクリックして選択する。

3 Administrator name と Administrator password 欄に管理者の名前とパスワードを入力する。

4 ［OK］をクリックする。
「Setting OK」が表示されれば、帯域制限の設定は終了です。

日付、時刻を設定する

本カメラの日付と時刻を設定します。

1 Date time タブをクリックして日付・時刻設定画面を表示する。

2 リストから日付・時刻を設定したいカメラをクリックして選択する。
複数のカメラを選択して、同時に日付・時刻を設定することができます。

3 Date time format リストボックスから、日付・時刻のフォーマットを選択する。

4 Time zone selecting のリストボックスから、カメラが設置されている地域を選択する。

5 日付・時刻を設定する。
次の 2 とおりの設定方法があります。

マニュアルで設定する
Manual current date time setting の各ボックスに現在の日付と時刻を設定する。
ボックスは、左から「年（下 2 桁)」、「月」、「日」、「時」、「分」、「秒」です。
設定が終わったら右端の［OK］をクリックするとカメラに反映されます。

コンピューターの日付・時刻に合わせる
PC current date time setting 欄にコンピューターに設定されている日付と時刻が表示されています。
この日付・時刻に設定するときは、右端の［OK］をクリックします。

ご注意

ネットワークの特性上、設定された時刻には多少のずれが発生する場合があります。

カメラを再起動する

Network タブの［Reboot］をクリックすると、カメラを再起動できます。
再起動には、10 ～ 20 秒かかります。

ARP コマンドを使ってカメラに IP アドレスを割り当てる

ここでは、付属のセットアッププログラムを使わずに、ARP（Address Resolution Protocol）コマンドを使ってカメラに IP アドレスを割り当てる方法を説明します。

ご注意

ARP コマンドの入力は、本機の電源を入れてから 5 分以内に行ってください。

1 コンピューター上で DOS ウインドウを開く。

2 ARP コマンドを使って、IP アドレスとその IP アドレスを割り当てるカメラの MAC アドレスを入力する。

```
arp -s ＜本機の IP アドレス＞ ＜本機の MAC アドレス＞
ping -t ＜本機の IP アドレス＞
```

例：

```
arp -s 192.168.0.100 08-00-46-21-00-00
ping -t 192.168.0.100
```

3 DOS画面に次の行が表示されたら[Ctrl]＋[C]を押す。停止します。

```
Reply from 192.168.0.100:bytes=32 time...
```

通常、「Request time out」が 5 回ほどで返答（Reply）を受け取ります。

ご注意

返答が受け取れない場合は、以下のことを確認してください。

－ 本機の電源を入れてから 5 分以内に ARP コマンドを入力しましたか？
いったん電源を切ってから操作し直してください。
－ カメラ本体の NETWORK インジケーターが消えていませんか？
ネットワークを正しく接続してください。
－ 割り当てられた IP アドレスがすでに使われていませんか？
新しい IP アドレスを割り当ててください。
－ ping コマンドを実行したコンピューターと本機が同じネットワークアドレスを持っていますか？
同じネットワークアドレスを入力してください。

SNMP 設定方法について

本機は、SNMP（Simple Network Management Protocol）をサポートしています。SNMP マネージャーソフトウェアなどのソフトウェアを使用して、MIB-2 オブジェクトの読み出しや一部の MIB-2 オブジェクトの書き込みが可能です。また、トラップとして、電源投入時および再起動時に発生させる coldStart トラップ、SNMP の不正アクセスが発生した場合に通知する Authentication failure トラップをサポートしています。
また、本機は、CGI コマンドを使ってコミュニティ名やアクセス元の制限設定、読み書き権限設定、トラップ先のホスト設定、一部の MIB-2 オブジェクトの設定を行うことができます。これらの設定を行うには Level 4（設定メニューを開くための権限）の認証を経る必要があります。

1. 問い合わせコマンド

以下の CGI コマンドで SNMP Agent の設定情報を確認できます。

<メソッド>
GET, POST
<コマンド>
http://ip_adr/snmpdconf/inquiry.cgi?inqjs=snmp
(JavaScript パラメータ形式)
http://ip_adr/snmpdconf/inquiry.cgi?inq=snmp
(通常の形式)

上記の問い合わせによって、以下の設定情報を取得できます。ここでは inqjs=snmp（JavaScript パラメータ形式）で問い合わせ情報を取得した場合の設定情報について説明します。

```
var sysDescr="¥"SONY Network Camera SNC-CS3
¥""                                           ・・・①
var sysObjectID="1.3.6.1.4.1.122.8501"        ・・・②
var sysLocation="¥"¥""                        ・・・③
var sysContact="¥"¥""                         ・・・④
var sysName="¥"¥""                            ・・・⑤
var snmpEnableAuthenTraps="1"                 ・・・⑥
var community="public,0.0.0.0,read,1"         ・・・⑦
var community="private,192.168.0.101,
    write,2"                                  ・・・⑧
var trap="public,192.168.0.101,1"             ・・・⑨
```

① mib-2.system.sysDescr.0 のインスタンスが記されます。これについては変更することはできません。

その他

② mib-2.system.sysObjectID.0 のインスタンスが記されます。これについても変更することはできません。

③ mib-2.system.sysLocation.0のインスタンスが記されます。この製品の設置場所に関する情報を記述するフィールドです。工場出荷時は何も設定されていません。

④ mib-2.system.sysContact.0 のインスタンスが記されます。この製品の管理者に関する情報を記述するフィールドです。工場出荷時には何も設定されていません。

⑤ mib-2.system.sysName.0 のインスタンスが記されます。この製品の管理対象ノードを記述するフィールドです。工場出荷時には何も設定されていません。

⑥ mib-2.snmp.snmpEnableAuthenTraps.0 のインスタンスが記されます。この例では 1(enable) が設定されており、Authentication failure が発生した場合にはトラップが発生することになります。2(disable) が設定されている場合には Authentication failure トラップは発生しません。

⑦ コミュニティ名、および読み書き属性の設定情報が記されています。この例の場合には ID=1 という識別番号で、"public" というコミュニティ名で IP アドレスを問わず（0.0.0.0)、read（読み出し）が可能となるように設定されています。

⑧ ⑦ と同様にコミュニティ名、および読み書き属性の設定情報が記されています。この例の場合には ID=2 という識別番号で、"private" というコミュニティ名で IP アドレス 192.168.0.101 のホストからの SNMP 要求パケットに対して、read/write（読み書き）が可能となるように設定されています。

⑨ トラップ先のホスト名が記されています。この例の場合には ID=1 という識別番号で、"public" というコミュニティ名で IP アドレス 192.168.0.101 のホストに対してトラップが送信されるように設定されています。

2. 設定コマンド

SNMP に関する設定コマンドは以下のような形でサポートされています。

< メソッド >
GET, POST

< コマンド >
http://ip_adr/snmpdconf/snmpdconf.cgi ?
<parameter>=<value>&<parameter>=...&...

まず、以下のパラメータを使用して設定を行います。

1) sysLocation=<string>
mib-2.system.sysLocation.0 のインスタンスを <string> で表わされる文字列に設定します。
<string> の長さは最大 255 文字です。

2) sysContact=<string>
mib-2.system.sysContact.0 のインスタンスを <string> で表わされる文字列に設定します。
<string> の長さは最大 255 文字です。

3) sysName=<string>
mib-2.system.sysName.0 のインスタンスを <string> で表わされる文字列に設定します。
<string> の長さは最大 255 文字です。

4) enaAuthTraps=<value>
mib-2.snmp.snmpEnableAuthenTraps.0 のインスタンスの値を設定します。<value> には 1（enable）または 2（disable）のいずれかを入力します。

5) community=<ID>, <rwAttr>, <communityName>, <IpAddressString>
コミュニティ名、および読み書き属性の設定を行います。<ID> は設定の識別番号 (1 〜 8 のいずれか)、<rwAttr> は読み書き属性を表わす 1 文字 ("r"、"R"、"w"、"W" のいずれか)、<communityName> は設定するコミュニティ名、<IpAddressString> はアクセスを許可するホストの IP アドレスを記述します (任意のホストに許可する場合には 0.0.0.0 とします)。
例： 識別番号 2 に "private" というコミュニティ名で任意のホストに read/write を許可する
community=2,w,private,0.0.0.0

6) trap=<ID>,<communityName>, <IpAddressString>
トラップ送信先のホストを設定します。<ID> は設定の識別番号 (1 〜 8 のいずれか)、<communityName> はトラップ送信時のコミュニティ名、<IpAddressString> はトラップ送信するホストの IP アドレスを設定します。
例： 識別番号 1 に "public" というコミュニティ名でのトラップ送信先を設定する。
trap=1,public,196.168.0.101

7) delcommunity=<ID>
既に設定されているコミュニティ設定を削除する場合に使用します。<ID> は既に設定されている community 設定の識別番号（1 〜 8 のいずれか）です。

8) deltrap=<ID>
既に設定されているトラップ送信先のホスト設定を削除する場合に使用します。<ID> は既に設定されている trap 設定の識別番号（1 〜 8 のいずれか）です。

上記 1) 〜 8) のパラメータを使用して SNMP 設定情報の変更が完了したら、問い合わせコマンドを使用して設定変更情報を確認します。変更した設定でよければ次の CGI コマンドを使用して SNMP を再起動させます。この際 、本機は再起動動作を行いますのでご注意ください。

SNMP 再起動コマンド

< メソッド >
GET, POST
< コマンド >
http://ip_adr/snmpdconf/snmpdconf.cgi?snmpd=restart

HTML ファイルを内蔵のフラッシュメモリに書き込む

本機では、ブラウザのアドレス欄に本機の IP アドレスを入力したときに表示されるページを、独自に作成したホームページに設定することができます。ここでは、本機の CGI コマンドを使って作成したホームページの HTML ファイルを、本機に内蔵されたフラッシュメモリに書き込む方法を説明します。

独自のホームページを設定する方法は、「Default URL」（18 ページ）をご覧ください。

ご注意

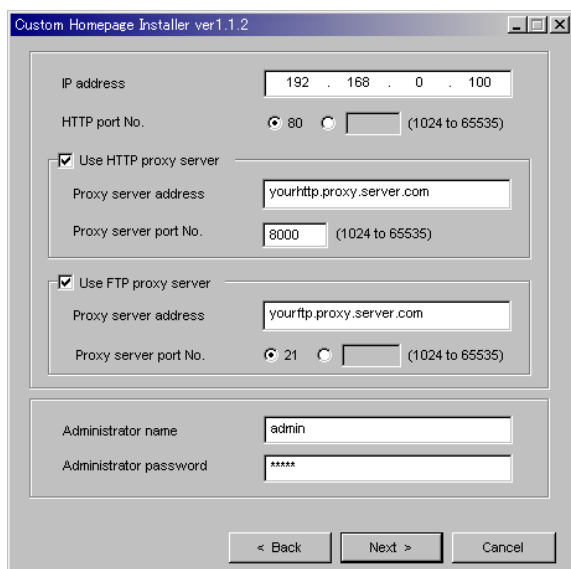
・ Administrator のユーザーアクセス権で実行してください。
・ フラッシュメモリへ書き込むホームページの容量は 2.4MB 以下にしてください。
・ Built-in memory の空き容量は 2.5MB 以上必要です。
・ イメージメモリー機能（40 ページ）は OFF に設定してください
・ ファイアウォールなどで、HTTP ポート、FTP ポートがブロックされていないことを確認してください。（不明な場合は、ネットワーク管理者に確認してください。）
・ フラッシュメモリへの書き込みが終了すると、カメラは再起動します。また、カメラが再起動するまでは、カメラの電源を切らないでください。

1 付属の CD-ROM をコンピューターの CD-ROM ドライブに入れる。

2 CD-ROM ドライブ内の Homepage フォルダをダブルクリックして開く。

3 CustomHomepageInstaller.exe をダブルクリックする。
インストーラーが起動し、注意事項が表示されます。

4 注意事項をよく読んで、[Next>] ボタンをクリックする。
使用許諾契約書が表示されます。

5 使用許諾契約書をよく読んで、同意される場合は、[Agree] を選択し、[Next>] ボタンをクリックする。

6 IP address 欄にカメラの IP アドレスを入力する。

7 カメラの HTTP port No. を設定する。

8 プロキシサーバーを経由してカメラと通信を行う場合は以下の設定を行う。
プロキシサーバーについては、ネットワーク管理者にご相談ください。

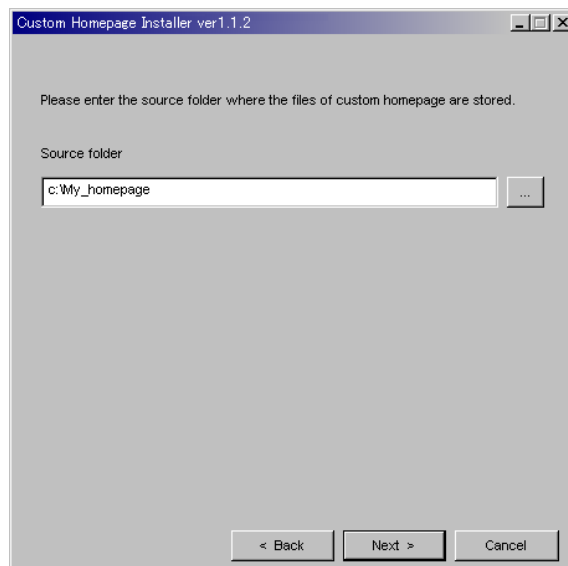
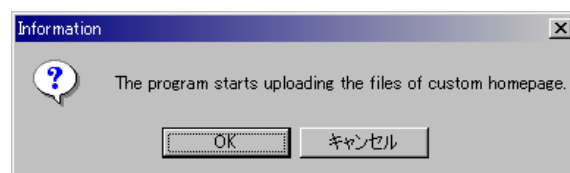
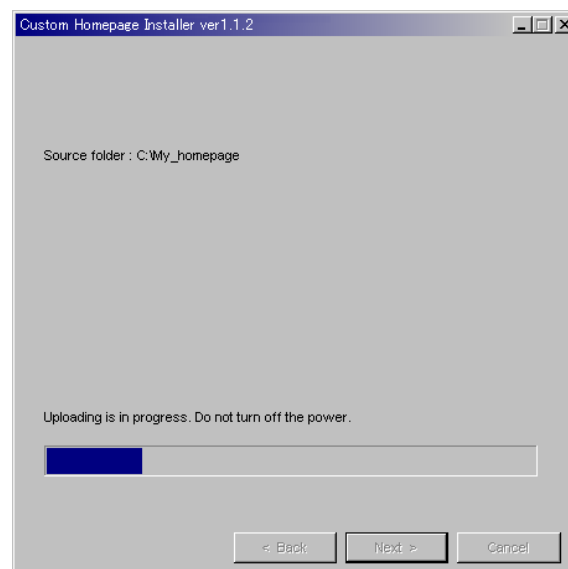
HTTP proxy server を使う場合
[Use HTTP proxy server] を選択し、Proxy server address および Proxy server port No. 欄にそれぞれの値を入力します。

FTP proxy server を使う場合
[Use FTP proxy server] を選択し、Proxy server address および Proxy server port No. 欄にそれぞれの値を入力します。

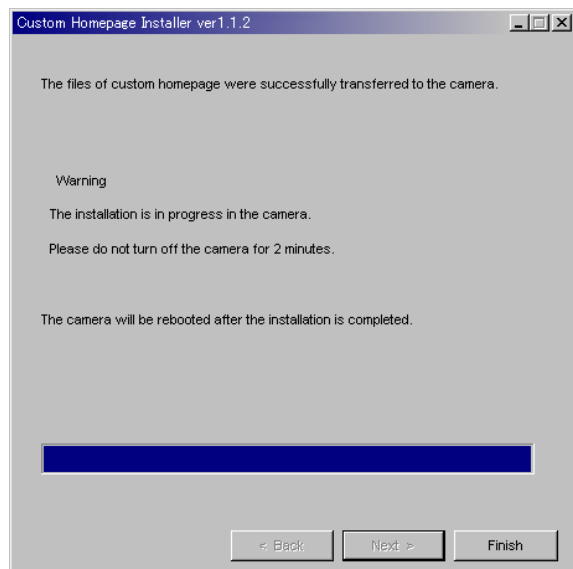
ご注意

お使いになるプロキシサーバーによっては、カメラと正しく通信できない場合があります。その場合は、ローカルネットワーク上にカメラを接続して、プロキシサーバーを使わずにインストーラーを実行してください。

9 Administrator name と Administrator password 欄に管理者のユーザー名とパスワードを入する。

10 正しく設定されていることを確認してから、[Next>] ボタンをクリックする。

11 Source folder 欄に、独自に作成した Homepage が保存されているフォルダーのパスを入力し、[Next>] ボタンをクリックする。

12 [OK] をクリックする。
Homepage ファイルのカメラへのアップロードが始まります。

しばらくすると次の画面に変わります。この画面が表示されてから約2分後にカメラが自動的に再起動

その他

し、内蔵フラッシュメモリへの書き込みが終了します。

13 [Finish] ボタンをクリックしてプログラムを終了する。

索引

五十音順

アルファベット順

あ
アクセス権 25
アクセス制限 26
アクセス履歴 18
アラーム出力 12, 34
アラームバッファ 39

い
イメージメモリー機能 36

う
ウェルカムページ 8, 9, 17
上書き 37

か
画質 20
画像操作部 10, 11, 12
画像の切り出し 20
画像のサイズ 20
画像表示サイズ 11
画像表示部 11
画像メモリー 39
カメラを設定する 20
カラー画像 20
感度 22
管理者 8
管理者設定メニューページ 16

き
逆光補正 21
キャプチャー 13
キャラクター長 40
共通ボタン 17
記録 12, 36

こ
コントラスト 22

さ
再起動 19, 45
彩度 22
サブネットマスク 22

し
時差 18
システム設定 17
出荷時の設定 19
シリアル接続機器 40
シリアル番号 17
白黒画像 20

す
スケジュール 41
ストップビット 40

せ
静止画像 13
セキュリティ機能 26
セキュリティ設定 26
セットアッププログラム 43
鮮鋭度 22

そ
送信 12, 27
ソフトウェアのバージョン 18

た
帯域 23
ダイジェストビューアー 29
タイトルバー名 17

つ
通信帯域 44

て
データの送受信 40
デフォルトゲートウエイ 22
電子シャッター 22
転送 12

と
動体検知機能 41
トリガー操作部 12

ね
ネットワーク設定 22

は
パスワード 25
バックアップ 29
パリティ 40

ひ
日付／時刻 18, 45
ビューアー 9

ふ
フラッシュメモリ 18, 48
プリアラーム 39
フレームレート 11
フレームレートの初期値 17
プロキシサーバー 24

ほ
ポート番号 23
ボーレート 40
ポストアラーム 39
保存 13, 19
ポップアップ 42
ホワイトバランスモード 21

め
メインビューアーページ 10
メニュー操作部 10
メモリー 12, 36

ゆ
ユーザー設定 25
ユーザー認証 25
ユーザー名 25

ろ
ログイン 8
ログインページ 8
露出 21

A
ActiveX viewer 9
Application メニュー 16
Apply ボタン 17
ARP コマンド 46

B
Back ボタン 17
Basic メニュー 16

C
Camera reset 22
Cancel ボタン 17
CGI コマンド 40, 46, 48
Custom Homepage Installer ... 18, 48

D
DHCP 22
DNS サーバー 23

E
E メール 12, 32

F
FTP クライアント機能 27
FTP サーバー 12
FTP サーバー機能 31

H
HTML ファイル 18, 48
HTTP 40
HTTP サーバーポート番号 23

I

Internet Explorer 8
IP アドレス........................ 8, 22, 43
IP アドレス通知........................... 23

J

Java applet viewer 9

M

MAC アドレス 23

N

NTP サーバー.............................. 19

O

OK ボタン 17

S

SMTP.. 23
SMTP 機能 32
SNMP 46

T

TCP... 40
TCP ポート 40

U

URL.. 18

お問い合わせは
「ソニー業務用製品ご相談窓口のご案内」にある窓口へ

ソニー株式会社　〒141-0001 東京都品川区北品川6-7-35

http://www.sony.co.jp/